

Little Wave “Arc” XP

製品取扱説明書



I. イントロダクション

Ki Mobilityの車椅子をご購入いただきありがとうございます！

⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子のご使用前に、このマニュアルをよく読んでください。本書をお読みにならないでご使用になると、使用者や介助者に重大な危害を及ぼす場合があります。

ご使用前に、担当医・セラピスト・車椅子販売店による、この車椅子の安全な使用法についての訓練を受ける必要があります。

この車椅子、このマニュアル、当社またはお客様の小売業者が提供するサービスについてご質問やご不明な点がある場合は、お気軽に電話でお問い合わせください。

株式会社ユーキ・トレーディング
〒110-0008
東京都台東区池之端2-5-46
TEL : 03-3821-7331
FAX : 03-3821-7552
MAIL : info@yukitrading.com
HP: www.yukitrading.com



II. 目次

I.	イントロダクション	
II.	目次	
III.	通知 - 使用前に読むこと	
A.	使用について	3
B.	安全性について	3
C.	注意喚起の用語	3
D.	シリアルナンバーの識別	4
E.	記号用語集	4
F.	一般的な警告と注意	5
G.	ポジショニングベルト・ポジショニングハーネス	6
H.	走行時について	6
I.	電動ユニットについて	8
J.	車椅子と周囲の環境	9
K.	車椅子の改造	9
L.	車椅子の安定性	9
M.	アフターマーケット製シーティング製品	10
IV.	車椅子の使い方と構成	
A.	上り階段	11
B.	下り階段	11
C.	移乗	12
D.	車載装置の使用時	12
E.	クッションの使用時	15
F.	アークと構成部品	16
G.	車椅子の折り畳み	17
H.	高さ調整式T型アームサポート	19
I.	高さ調整式小児用T型アームサポート	20
J.	角度・長さ段階調整式フリップアップアームサポート	21
K.	スイングアウェイハンガー	21
L.	4-Wayラッチ付スイングアウェイハンガー	22
M.	延長チューブ	23
N.	エレベーティングフットサポート	23
O.	Proエレベーティングフットサポート	24
P.	小児用エレベーティングフットサポート	27
Q.	拘縮用フットサポート	29
R.	マルチアングル調整式フットサポート	30
S.	バックサポート	31
T.	リクライニング式バックサポート	33
U.	ティルトメカニズム	34
V.	リアホイール	37
W.	ブレーキ	38
X.	ドラムブレーキ	39
Y.	介助者用フットブレーキ	40
Z.	表面温度	40
AA.	転倒防止装置	41
BB.	片手ブレーキ	44
CC.	キャノピー	45
DD.	折り畳み式調整ハンドル	46
EE.	折り畳み式リジッドバー	46
V.	点検と手入れ	
A.	メンテナンステーブル	47
B.	清掃	48
C.	保管	48
D.	廃棄	49
VI.	トラブルシューティング	
A.	症状と解決策	50
VII.	保証	51

III. 通知 - 使用前に読むこと

A. 使用について

使用目的:Ki Mobilityの手動車椅子は、立位での移動が困難な方に移動手段を提供する、医療目的を意図した車輪付きの手動操作装置です。

対象ユーザー:車椅子は、身体に障害があるか、歩行する能力が制限されている使用者を対象としています。車椅子ユーザーは、移動のための車椅子の使用において、依存しても独立しても構いません。

使用の適応:ユーザー・担当医・セラピスト・介助者・車椅子販売店等によって検討され決定された、ユーザーに必要な機能が満たされた車輪付きモビリティである場合。

使用の禁忌: 担当医・セラピスト・介助者・車椅子販売店等によって検討され決定された必要な機能が満たされておらず、ユーザーのニーズに対応できない場合。

B. 安全性について

車椅子やその付属品の使用に関連した重大なアクシデントや負傷は、その出来事が直接的あるいは間接的にユーザーや他の人々に深刻な負傷や死亡につながる場合があります。それらの事象が発生した場合、速やかにユーキ・トレーディングに報告してください。ユーザーが居住している地域によって相談所等より報告が要求される場合は、併せて報告してください。

このマニュアル全体を読まないままこの車椅子を使用しないでください。使用前に、担当医やセラピスト、車椅子販売店より車椅子の安全な使用法について訓練を受ける必要があります。Ki Mobilityは、お客様のニーズを満たすべくさまざまな機種の車椅子を製造しています。車椅子を選択するための一番の方法は、担当医やセラピスト、車椅子販売店などの経験豊富な専門家に相談することです。車椅子の機種、オプション、調整の最終的な選択は、あなたと彼ら専門家のみに委ねられています。選択したオプション、および車椅子のセットアップと調整は、そのパフォーマンス、安定性、およびあなたのニーズを満たすか否かに大きく影響します。安全性と安定性に影響を与える考慮すべき要素は以下のとおりです。

- 筋力、体幹のバランス、調整力を含むあなたの個人的な能力と素質。
- 車椅子での移動時に遭遇する可能性のある危険や障害の種類。
- 寸法、オプション、およびセットアップ。特に、座面高、座奥行、座角、背もたれの角度、後輪のサイズと前出し位置、およびフロントキャスターのサイズと位置。

C. 注意喚起の用語

このマニュアルには、「注意喚起」のための用語が含まれています。これらの用語は、さまざまな危険の重大度を識別して伝えるために使用されます。この車椅子を使用する前に、あなたと介助者は、このマニュアル全体を読む必要があります。注意喚起の用語を意識し、「注」、「注意」、「警告」を考慮してください。必ずすべての指示に従い、車椅子を安全に使用してください。注意喚起の用語は、あなたや他の人に重傷や死亡を引き起こす可能性のある要素または危険な行為を指します。注意喚起の用語は、次の3つのカテゴリに分類されます。

注-回避しないと、車椅子の性能が低下したり、車椅子が損傷したりする可能性のある潜在的に危険な状況を示しています。



注意-回避しないと、怪我や車椅子の損傷につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。



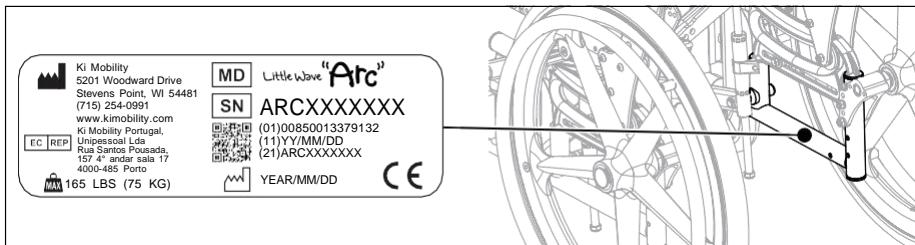
警告-回避しないと、重傷や死亡につながる可能性のある潜在的に危険な状況を示します。

これら注意喚起の用語は、危険な状況を強調するために適宜マニュアルに配置されています。この車椅子の一般的な使用に適用される危険な状況については、セクションFを参照してください。

III. 通知 - 使用前に読むこと

D. シリアルナンバーの識別

シリアルナンバーのラベルは車椅子に関する重要な情報を提供し、シリアルナンバーは車椅子を特定する為に使用されます。シリアルナンバーの位置については、下図を参照してください。



E. 記号用語集

記号	意味
	医療機器メーカーを示す記号です。
	製造年月日（年 / 月 / 日）。
	注意や警告などの安全上の理由から、ユーザーが指示を参照する必要があることを示します。医療機器本体やパッケージに表示されている場合は、注意や警告などの安全上の理由により、指示を参照してください。
	アイテムが医療機器であることを示します。
	特定の医療機器を識別できるように、製造元のシリアルナンバーを示します。
	欧州共同体の正式な代表者を示します。
	製品が該当するEC指令の要件を満たしているというメーカーの宣言を示します。
	ユーザーが使用説明書を参照する必要があることを示します。
	電子形式での使用手順については、リストされているWebサイトをユーザーが参照する必要があることを示します。
	ユーザーが医療製品に関する追加情報を入手できるWebサイトを示します。
	耐荷重を示します(lbs/kg)。
	車載フック締結位置を示します。
	指などを挟む危険性のある位置を示します。

III. 通知 - 使用前に読むこと

F. 一般的な警告と注意

⚠️ WARNING ⚠️

	耐荷重
Arc	1651lbs (75kg)

警告:耐荷重は、ユーザー自身と持ち運ばれるすべてのアイテムの合計重量を指します。車椅子の耐荷重を超えないでください。耐荷重を超えると、車椅子の損傷や、転倒、転落のリスクが高まります。転倒や転落により、重傷を負ったり死亡する恐れがあります。

- ⚠️ ウエイトトレーニングに車椅子を使用しないでください。重量が増えると椅子の重心が変わり、転倒のリスクが高まります。転倒すると、車椅子に損傷を与えたり、重傷を負ったり、死亡したりする可能性があります。
- ⚠️ タイヤの空気圧を適切に保ってください。適切でないまま車椅子を使用すると、車椅子の安定性に影響し、転倒のリスクが高まります。転倒すると、車椅子の損傷や、あなたや他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。タイヤの側面に正しい空気圧が表示されています。適正な空気圧がわからない場合、車椅子販売店が判断します。
- ⚠️ 傾斜が9度を超える斜面は避けてください。急な斜面は転倒や転倒の危険性が高くなります。転倒や転落により、椅子が損傷したり、あなたや他の人が重傷を負ったり死亡する可能性があります。9度以上傾斜した斜面では、登り・下り・横切りのいずれも車椅子を使用しないでください。
- ⚠️ 傾斜面には氷、油、水などを塗ったり、滑りやすくしたりしないでください。滑りやすい斜面は転倒や転落の原因になります。転倒や転落により、車椅子が破損したり、重傷を負ったり、死亡するおそれがあります。
- ⚠️ 車椅子の横や後ろに寄りかかって手を延ばさないでください。重心が変わって不安定な状態になり、転倒や転倒の原因になります。転倒や転落により、車椅子が破損したり、重傷を負ったり、死亡するおそれがあります。
- ⚠️ 車椅子を使用中は取り外し可能な部分で持ち上げないでください。アームレストやフットレストなどの取り外し可能なパーツを使用して車椅子を持ち上げると、転倒や制御不能に陥ることがあります。転倒や制御不能により、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。
- ⚠️ 梱包材は子供の手の届かないところに保管してください。梱包材の不適切な取り扱いや子供を監督する義務の怠慢は、窒息や重傷または死亡につながる可能性があります。
- ⚠️ 椅子やコンポーネントを極端な温度（日光、サウナ、極端な寒さなど）にさらさないでください。椅子やコンポーネントとの接触による低体温症や火傷が発生したり、コンポーネントが故障したりする可能性があります。

⚠️ CAUTION ⚠️

注意:コンポーネントをフレームに取り付けるボルトやハードウェアを締めすぎないようにしてください。締めすぎは車椅子の損傷に繋がります。また、車椅子の耐久性やパフォーマンスに影響を与えます。車椅子が損傷すると、ユーザーが怪我をする可能性があります。

注:ハードウェアの締め付けに関する情報は、このマニュアルのメンテナンスの項目に記載されています。ボルトやハードウェアを適切に締める方法がわからない場合、または必要な工具が不足している場合は、車椅子の販売店にご相談ください。

III. 通知 - 使用前に読むこと

G. ポジショニングベルト・ポジショニングハーネス

⚠️ WARNING ⚠️

警告：ポジショニングベルトを不適切に使用すると、ユーザーがポジショニングベルトの下に滑る可能性があります。これが発生した場合、ベルトからの圧力により胸骨圧迫や窒息が発生する可能性があります。これらが発生すると、ユーザーの呼吸が妨げられ、重傷または死亡につながる可能性があります。

⚠️ ポジショニングベルトを不適切に使用すると、身体の一部が絡まり、可動性や動きが制限され、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

Ki Mobilityは、骨盤ポジショニングベルトの使用を推奨しています。骨盤ポジショニングベルトは、車椅子から滑ったり、落下するリスクを減らすことができます。

骨盤ポジショニングベルトや前部胴体ハーネスおよびストラップなどのポジショニングベルトは、車椅子での適切なポジショニングと姿勢を支援、保持、およびサポートするように設計されています。

- ユーザーが車椅子シートから滑り、ポジショニングベルトの下に潜らないようにしてください。
- ポジショニングベルトは、ユーザーの姿勢を保ちつつも呼吸を制限しない程度にぴったりとフィットさせます。開いた手がベルトとユーザー間の隙間を通る程度のクリアランスが必要です。
- クッションを適切に使用すると、骨盤の安定性に貢献し、滑りを減らすことができます。
- 以下のケースではポジショニングベルトは絶対に使用しないでください。
 - 身体拘束用具として。
 - 緊急時にベルトを簡単に外せない場合。これができない場合は、姿勢を改善するための他のオプションについて、担当医やセラピスト、車椅子販売店に相談してください。
 - 意識を失っている、または動搖しているユーザーに対して。
 - 自動車の乗員拘束装置、または安全ベルトとして。ポジショニングベルトは、自動車のフレームに取り付けられているシートベルトの代わりになるようには設計されていません。急ブレーキによる慣性力で、ユーザーは前方に投げ出されます。車椅子のシートベルトはこれを防ぐことはできず、ベルトやストラップによってさらに怪我をする可能性があります。詳細については、このマニュアルのトランジットの項目を参照してください。

H. 走行時について

⚠️ WARNING ⚠️

警告：車椅子を、柔らかい、粗い、凹凸のある、または滑りやすい表面（氷、砂、緩い土、草、砂利、くぼみ、ひび割れ、舗装の破損など）で押したり使用したりしないでください。このような表面で使用すると、車椅子の安定性が失われ、予期せぬ転倒による転落や、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

⚠️ フロントキャスターホイールが引っ掛かり、車椅子が急停止する原因となる可能性のある障害物や表面の変化に常に注意してください。そうしないと、車椅子が予期せぬ転倒による転落や、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

III. 通知 - 使用前に読むこと

H. 走行時について（前ページの続き）

 走行中、車椅子が衝突する可能性のある物や障害物には常に注意を払ってください。物や障害物に衝突すると、車椅子が予期せず転倒して転落や、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。また、物や障害物に衝突すると車椅子に損傷を与える可能性があります。物体や障害物に衝突した際のリスクは、速度が上がるにつれて高くなります。

 車道で車椅子を使用することは非常に危険であり、お勧めできません。車いす利用者は、歩行者の通行規則に従わなければなりません。国や自治体の法令、条例等に従い安全に走行してください。

 車椅子の安定性は、路面の傾斜によって変化します。傾いた路面は、車椅子の安定性を低下させます。これは、斜面を横切る際に特に当てはまります。坂道で車椅子に乗ると、車椅子が予期せず傾いたり、ユーザーの安定性が失われたりして、転倒したり、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

 公共の空間やプライベートエリア（横断歩道、歩道、駐車場、公園など）問わず、車椅子を使用する場合は、自動車の危険性に注意してください。

車椅子による低さをカバーするには：

- 照明が不十分な場合は、車椅子や衣服に反射テープを使用してください。
- 横断歩道など、優先権がある場合でも自動車の運転手があなたに気付くまで常に譲歩します。

 後方に推進するときは細心の注意を払ってください。転倒の原因となる障害物が見えない場合があります。転倒すると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

 Ki Mobilityは、前輪を地面から離して後輪のみでバランスを取ることを推奨しています（「ウイリー」としても知られています）。転倒や転落の可能性が非常に高く、車椅子の損傷、重傷、または死亡につながる可能性があります。この警告を無視することを選択した場合は、臨床または技術の専門家による訓練を受けていない限り、ウイリーを試みないでください。限界点を超えないように、常に健常者の助けを借りてください。

 車椅子をエスカレーターに乗せないでください。エスカレーターで車椅子を使用すると、転倒、転落、または制御不能に陥る可能性があります。転倒、転落、または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

 車椅子上で服を着たり脱いだりしないでください。車椅子上での脱衣は重心移動の原因になり、転倒または転落のリスクが高まります。転倒または転落すると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

 Ki Mobilityは、ヒールループやカフストラップなどのアクセサリーの使用をお勧めしています。ヒールループやカフストラップを適切に使用すると、足が誤ってフットレストやフットレストから滑り落ちて、車椅子やそのコンポーネントに足が絡まったり、地面にぶつかったりするのを防ぐことができます。適切に取り付けられたヒールループやカフストラップなどの付属品なしで車椅子を使用すると、危険な状況が発生する可能性があり、回避しないと怪我をする可能性があります。

III. 通知 - 使用前に読むこと

H. 走行時について (前ページの続き)

車椅子乗車時に常に注意すること

- 常に先の状況まで気を配って走行してください。
- 走行する路面が水平で、障害物がないことを確認してください。
- 部屋と部屋の間の段差や隙間を解消してください。
- 転倒防止装置が装着されている場合は、それらが所定の位置にロックされていることを確認してください（転倒防止装置の適切な使用についてはセクションAAを参照してください）。
- 障害物を乗り越えるときは、両手をハンドリムに置いてください。
- 周囲の物体を押したり引いたりして車椅子で移動しないでください。
- スロープの下に落下物がないことを確認してください。
- 上り坂では、上半身を少し前に傾けて、後ろに傾かないようにします。
- 下り坂では、上半身を後ろに倒して、前に倒れないようにします。
- 補助なしで障害物を押し出そうとしないでください。
- 乗り越えようとするすべての坂道、スロープ、または縁石のカットが、ADA (Americans with Disabilities Act) ガイドラインまたはお住まいの地域の同等のアクセシビリティガイドラインに準拠していることを確認してください。

ADAガイドラインとアクセシブルなデザインの詳細については、www.ada.govをご覧ください。

I. 電動ユニットについて

⚠️ WARNING ⚠️

警告: 電動ユニットが、車椅子とそのオプション構成で使用するために、製造元によって検証および承認されていることを確認してください。未承認の外部電動ユニットを使用すると、車椅子の機械的故障や転倒の原因となる可能性があります。転倒すると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠️ 電動ユニットは、車椅子の安定性と性能を変えます。電動ユニット使用時は、常に転倒防止装置を使用してください。さもないと、車椅子が後ろに倒れる可能性があります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠️ 車椅子が衝突する恐れのある物体や障害物には常に注意してください。電動ユニットは車椅子の性能を変化させ、物体や障害物に衝突した場合に予期せず転倒するリスクを高めます。予期せぬ転倒は、転落や、制御不能に陥る可能性があります。その場合、車椅子が損傷する可能性があります。物体や障害物に衝突した際に車椅子が損傷したり怪我をするリスクは、速度が上がるにつれ高くなります。

Ki Mobilityは、Ki Mobility製車椅子に電動ユニットを取り付けることを推奨していません。Ki Mobility製車椅子は、Ki Mobilityによって電動車椅子として設計またはテストされていません。Ki Mobility製車椅子に電動ユニットを追加する場合は、電動ユニットの製造元が、電動ユニットと車椅子の組み合わせが安全で効果的であることを検証および承認していることを確認してください。

III. 通知 - 使用前に読むこと

J. 車椅子と周囲の環境

⚠ CAUTION ⚠

注意：水や過度の湿気にさらされると、車椅子の金属部品の錆びや腐食、布部品の破れが発生する可能性があります。水にさらされた場合は、できるだけ早く車椅子を乾かしてください。

⚠ 車椅子をシャワー、プール、または海や川などで使用しないでください。錆びや腐食が発生し、最終的には故障します。

⚠ 車椅子を砂の中で使用しないでください。砂がホイールベアリングや可動部品に入る可能性があります。これは部品の損傷を引き起こし、最終的に車椅子が故障します。

K. 車椅子の改造

⚠ WARNING ⚠

警告：このマニュアルに従って調整するか、Ki Mobility承認のオプションを追加する場合を除き、この車椅子を改造することはできません。訓練を受けたKi Mobilityアソシエイト以外によるフレームの穴あけや切断を伴う承認されたオプションはありません。あなたの車椅子は、厳格な設計管理の下で設計および製造されました。このプロセスの不可欠な部分は、さまざまなコンポーネントが正しく連携することの保証です。それらは品質を保証するためにさまざまな基準でテストされており、連携することが承認されています。Ki Mobilityが提供していないアクセサリーやコンポーネントを追加する前に、車椅子販売店またはユーキ・トレーディングに連絡してください。承認されていない変更またはオプションは、転倒につながり、重傷または死亡につながる可能性があります。

L. 車椅子の安定性

⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子の安定性は、柔らかい、粗い、凹凸のある、または滑りやすい表面（氷、砂、緩い土、草、砂利、くぼみ、ひび割れ、舗装の破損など）で使用することにより変化します。このような表面で使用すると、車椅子の安定性が失われ、予期せぬ転倒による転落や、制御不能に陥る可能性があります。転倒または制御不能は、車椅子の損傷、重傷または死亡につながる可能性があります。

⚠ 車椅子上で体勢を変えたり、車椅子に荷物を積むなどで重量を追加したり、物を運んだり手を伸ばしたりすると、車椅子の安定性に影響を与える可能性があります。転倒または転落のリスクが高まります。転倒または転落により、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠ 車椅子上で服を着たり脱いだりしないでください。車椅子での脱衣は体重移動の要因になり、転倒や転落のリスクが高まります。転倒または転落により、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

⚠ Ki Mobilityは、前輪を地面から離して後輪のみでバランスを取ることを推奨していません（「ウイリー」としても知られています）。転倒や転落の可能性が非常に高く、車椅子の損傷、重傷、または死亡につながる可能性があります。この警告を無視することを選択した場合は、臨床または技術の専門家による訓練を受けていない限り、ウイリーを試みないでください。限界点を超えないように、常に健常者の助けを借りてください。

III. 通知 - 使用前に読むこと

L. 車椅子の安定性（前ページの続き）

⚠️ WARNING ⚠️

警告：車椅子に座面角度の傾斜を変更するシステムが装備されている場合は、使用前に角度変更の範囲全体で安定していることを確認してください。車椅子が傾斜角度の範囲全体で安定していない場合、転倒または転落の恐れがあります。転倒または転落により、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

転倒のリスクを最小限に抑えるために

- ・ 転倒防止装置が正しい位置にあることを確認します（転倒防止装置については、セクションNを参照します）。
- ・ 傾斜を登る際は前傾します。
- ・ 傾斜を下る際は後傾します。
- ・ 介助者の支援を受けます。
- ・ 車椅子のセットアップは、認定された技術者のみが実施します。
- ・ 付属のアクセサリーを常に使用します。
- ・ 体重や座り方に変化があった場合、認定技術者が車椅子を調整します。
- ・ 必要に応じて、常に転倒防止を使用します（転倒防止装置については該当セクションを参照）。

車椅子の適切な安定性を確保するには、重心と車椅子のサポートのベースがバランスと能力に対して正しいことを確認する必要があります。多くの要因がこれらの2つの要素に影響を与える可能性があります。

- ・ 座面の高さ
- ・ 座面の奥行
- ・ 背の角度
- ・ 座面の角度
- ・ 後輪のサイズと位置
- ・ 前輪のサイズと位置
- ・ シーティングアイテムの構成
- ・ ティルト角度（該当する場合）

車椅子の安定性に悪影響を与える可能性のある行動はさまざまです。車椅子の安定性を維持しながら安全に何ができるかを判断するには、担当医やセラピストに相談する必要があります。

M. アフターマーケット製シーティング製品

⚠️ WARNING ⚠️

警告：車椅子にクッションを取り付けると、車椅子の重心に影響を与える可能性があります。重心が変化すると、車椅子の安定性に影響を及ぼし、車椅子の転倒や転落により、重傷を負う可能性があります。クッションを追加した後、十分な安定性を提供するために車椅子の変更が必要かどうかを確認するために、車椅子の使用説明書を常に確認してください。

⚠️ 皮膚の状態は、この製品の使用を含む、日常生活や病状など多くの側面によって影響を受けます。臨床医によって確立されたスキンケアに必ず従ってください。この製品の消費者は、臨床医の指示に従って、皮膚の変化を定期的に検査する必要があります。さもないと、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

適切なシーティング製品の選択

シーティングおよびポジショニング製品を選択する前に、車椅子シーティングおよびポジショニングのトレーニングを受けた資格のある臨床医（医師またはセラピスト）に相談してください。これにより、ニーズに合った適切な製品を受け取ることができます。

IV. 車椅子の使い方と構成

A. 上り階段

⚠ WARNING ⚠

警告：以下の手順で訓練を受け、あなたと車椅子の体重を支えることが可能な少なくとも2人の助けなしに、階段を上らないでください。階段を上るのは困難な場合があり、転倒して車椅子が損傷したり、ユーザーや介助者が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

注：階段を上るときは、ユーザーは下を向き階段の段差を見ている必要があります。

1. 階段を上るときは、転倒防止装置を取り外すか、上に向けます。転倒防止装置を取り外した後、または上向きに回した後は、必ず再取り付けするか、転倒防止装置を下向きに回してください。階段を上るときに転倒防止装置を下向きのままにしておくと、転倒や破損の恐れがあります。転倒防止装置が曲がったり折れたりすると、車椅子が後方に転倒するのを防ぐことができなくなります。後方に転倒すると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。
2. 介助者のうち1人をユーザーの後ろに、1人を前に配置します。前後の人は車椅子の取り外しできない部分を握らなければなりません。
3. ユーザーの後ろの人が車椅子を後ろに傾け、両方の介助者が一緒に持ち上げます。同じタイミングで一歩ずつ踏み出してください。

B. 下り階段

⚠ WARNING ⚠

警告：以下の手順で訓練を受け、あなたと車椅子の体重を支えることが可能な少なくとも2人の助けなしに、階段を下らないでください。階段を下るのは困難な場合があり、転倒して車椅子が損傷したり、ユーザーや介助者が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

注：階段を下るとき、ユーザーは上を見上げる必要があります。

1. 階段を降りるときは、転倒防止装置を取り外すか、上に向けます。アンチチップを取り外した後、または上位置に回した後は、必ず再取り付けするか、アンチチップを下位置に回してください。階段を降りるときに転倒防止装置を下の位置に置いたままにすると、転倒したり壊れたりする可能性があります。転倒防止装置が曲がったり折れたりしても、車椅子が後方に転倒するのを防ぐことはできなくなります。後ろに倒すと、椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。
2. 介助者のうち1人をユーザーの後ろに、1人を前に配置します。前後の人は車椅子の取り外しできない部分を握らなければなりません。
3. ユーザーの後ろ側の人が車椅子を後ろに傾け、後輪を階段の段差に乗せながら一段ずつゆっくりと降ろします。

IV. 車椅子の使い方と構成

C. 移乗

⚠ WARNING ⚠

警告：訓練を受け、自分一人で、または介助者と一緒に移乗ができるることを確認してください。バランスと敏捷性が必要なため、自分一人で移乗するのは危険です。移乗している瞬間、車椅子に座っていない状態の際は、移乗動作すべてのタイミングに注意点があることに留意してください。移乗を適切に行わないと、転倒し重傷を負ったり死亡する可能性があります。

注：移乗する前に、移乗元と移乗先2つの座面間のギャップを減らすためにあらゆる注意を払う必要があります。

1. ブレーキをかけ、後輪をロックします。
2. キャスターを前方に回転させ、ホイールベースを伸ばした状態にします。
3. フットサポートを取り外すか、スイングアウトします。
4. 一人で移乗ができない場合は、誰かに手伝ってもらいます。

D. 車載装置の使用時

⚠ WARNING ⚠

警告：車載オプションが装備されていない限り、車椅子を自動車の座席として使用しないでください。適切なシートとショルダーベルトを備えた自動車のシートに車椅子から乗り換えるのが常に最も安全です。車いすを自動車の座席として使用すると、車載用のオプションが装備されていない場合、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

車載オプションを備えた車椅子は、『RESNA WC-4、セクション19：自動車の座席として使用される車椅子およびISO 7176-19車椅子-パート19：自動車の座席として使用するための車輪付き移動装置』でテストされ、合格しています。RESNAおよびISO規格は、自動車で使用するための座席としての車椅子の構造的完全性をテストするように設計されています。

これらの規格は、車椅子タイダウントおよび乗員拘束システム (WTORS) との互換性をもつするようにも設計されています。

すべての車椅子のオプション構成が車載オプションと互換性があるわけではありません。Ki Mobilityはオプション構成を管理し、互換性のある構成でない場合は車椅子を提供しません。車椅子を受け取った後に変更を加える場合は、車椅子販売店またはユーキ・トレーディングに連絡し、車椅子を自動車の座席として引き続き使用することが適切かどうかを確認する必要があります。

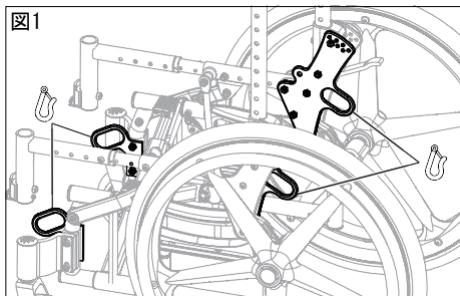
アフターマーケットのシーティングアクセサリーは、車載オプションの一部として設計およびテストされた元のシートおよびバックサポートに取って代わった可能性があります。車椅子販売店は、提供した車椅子の座席が純正なのか、交換用のアフターマーケット製品なのかをユーザーに伝えてください。車載オプションを備えた車椅子を自動車の座席として使用する前に、このセクションに記載されている基準にすべて準拠している、車椅子フレーム、座席、車椅子固定および乗員拘束システムの完全なシステム、および適切に装備された自動車を設置する必要があります。

車椅子を自動車の座席として使用する場合は、常に次の指示に従う必要があります。

IV. 車椅子の使い方と構成

D. 車載装置の使用時(前ページの続き)

- ユーザーは前向きの姿勢である必要があります。
- ユーザーと携行するすべてのアイテムの合計重量は、165ポンド(75 kg)を超えてはなりません。
- バックパックやポーチは取り外し、自動車内で別々に固定する必要があります。事故が発生した場合、これらのアイテムは危険な発射体となり、あなたや他の自動車の乗員を傷つけたり殺したりする可能性があります。
- ユーザーは、『RESNA WC-4、セクション18：自動車またはISO10542-1技術システムおよび障害者用補助装置で使用するための車椅子固定および乗員拘束システム-車椅子の固定および乗員拘束システム-パート1：すべてのシステムの要件とテスト方法』に準拠した車椅子固定および乗員拘束システムを使用する必要があります。
- 車椅子タイダWN装置の製造元の指示およびRESNAWC-4、セクション18、またはISO 10542-1、-パート1に従い、車載オプション(図1)を使用して、車椅子タイダWNを車椅子の4つの固定ポイント(前部2つ、後部2つ)に取り付けます。



- 乗員拘束装置の製造元の指示およびRESNAWC-4、セクション18またはISO 10542-1、パート1に従って、乗員拘束装置を取り付けます。
- ラップベルト、チェストストラップ、ショルダーハーネス、その他のポジショニングストラップシステム、またはポジショニングアクセサリーの使用は、『RESNA WC-4セクション18またはISO10542-1、パート1』に準拠し、メーカーによってそのようなマークがない限り、使用したり、乗員の拘束として信頼したりしないでください。
- ヘッドレスト、ラテラルサポート、またはその他ポジショニングアクセサリーの使用は、『RESNA WC-4セクション18、またはISO 10542-1パート1、またはRESNAWC-4セクション20：自動車で使用するための車椅子座席システムまたはISO 16840-4車椅子座席-パート4：自動車で使用するための座席システム』に従ってメーカーによってそのようにマークされていない限り、乗員拘束として使用したり、信頼したりしないでください。
- アフターマーケットのシーティングアイテムは『RESNA WC-4、セクション20、またはISO16840-4-パート4』に準拠するようにテストする必要があります。
- シーティングアイテムの製造元の指示および『RESNA WC-4、セクション20またはISO16840-4-パート4』に従って、座席を車椅子フレームに取り付けます。
- トレイ、酸素ボンベホルダー、酸素ボンベ、IVポール、バックパック、ポーチ、およびKi Mobility製ではないアイテムなどの社外アクセサリーは、取り外して、自動車内で個別に固定する必要があります。事故が発生した場合、これらのアイテムは危険な発射体になり、あなたや他の自動車の乗員を傷つけたり殺したりする可能性があります。
- 車椅子が事故に巻き込まれた場合は、目に見えない金属疲労や損傷を受けている可能性があるため、使用を継続しないでください。

IV. 車椅子の使い方と構成

D. 車載装置の使用時(前ページの続き)

⚠️ WARNING ⚠️

警告：自動車に乗っている間、椅子に一時的に取り付けられているアイテムをすべて取り外して固定します。ベントトレイ、バッテリートレイ、または酸素ボンベホルダーに取り付けたまま、自動車内で適切に個別に固定しない場合、事故の際にこれらのアイテムが危険な発射体になる可能性があります。さらに、酸素ボンベには、燃焼を激しく加速する高圧ガスが含まれています。これらの要因は、ユーザーや車両内の他の人の重傷または死亡につながる可能性があります。

- この車椅子を自動車の座席として使用する場合は、ベントトレイ、バッテリートレイ、または酸素ボンベホルダーに取り付けられているアイテムをすべて取り外し、個別に適切に固定する必要があります。
- 車椅子に酸素ボンベホルダーが装備されている場合は、車椅子を自動車の座席として使用しないでください。

注：RESNAやISO規格のコピーを入手するには、以下の団体に連絡してください。

RESNA

www.resna.org

ANSI/RESNA Standards:

RESNA WC-4, Section 18:

Wheelchair tie-down and occupant restraint systems for use in motor vehicles.

RESNA WC-4, Section 19:

Wheelchairs used as seats in motor vehicles.

RESNA WC-4, Section 20:

Wheelchair seating systems for use in motor vehicles.

International Organization for Standardization (ISO)

www.iso.org

ISO Standards:

ISO 10542-1 Technical systems and aids for disabled or handicapped persons -- Wheelchair tie-down and occupant-restraint systems -- Part 1:

Requirements and test methods for all systems.

ISO 16840-4 Wheelchair seating – Part 4:

Seating systems for use in motor vehicles.

ISO 7176-19 Wheelchairs – Part 19:

Wheeled mobility devices for use as seats in motor vehicles.

IV. 車椅子の使い方と構成

E. クッションの使用時

WARNING

警告：適切な車椅子用クッションなしで長時間座ることは避けてください。適切な車椅子用クッションなしで長時間座っていると、褥瘡を引き起こし、深刻な感染症や死に至る可能性があります。

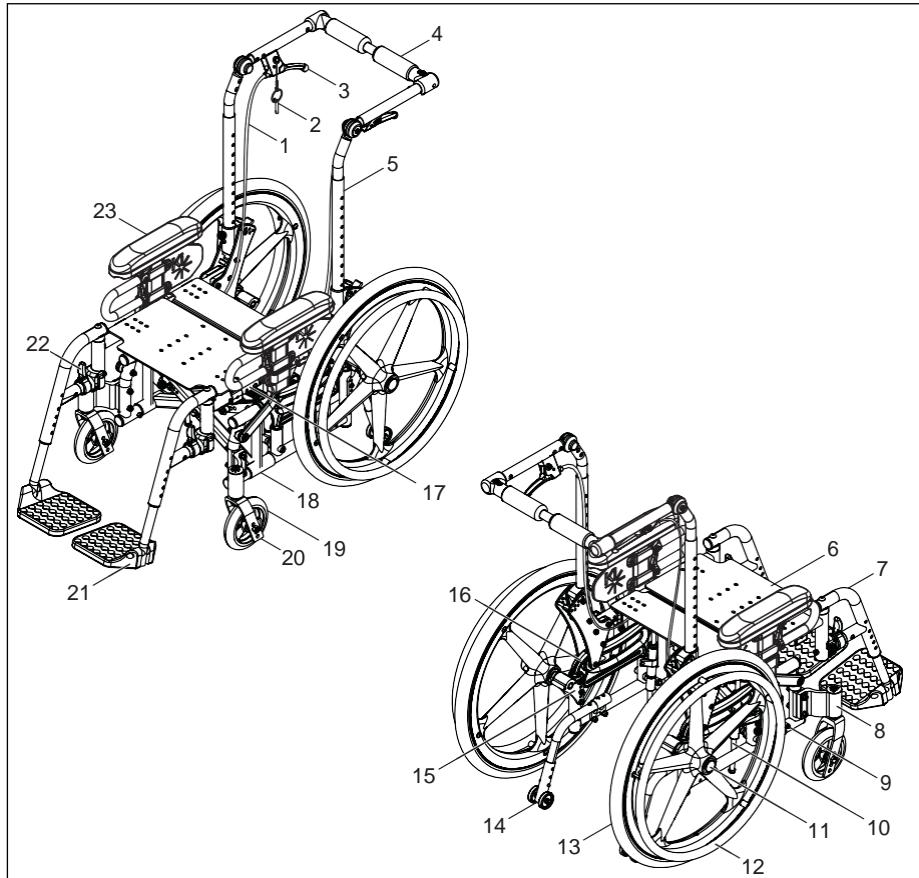
 使用または移動する前にクッションを固定してください。クッションを固定しないと、使用中または移動中にクッションが滑り落ちて、落下したり、制御できなくなったりする可能性があります。転倒したり、コントロールを失ったりすると、椅子が損傷したり、あなたや他の人が重傷を負ったり死亡したりする可能性があります。

- a. この車椅子は、適切な車椅子クッションと一緒に使用するように設計されています。
- b. 標準のスリングシートには、フックとループの自動固定ストリップが付いています。使用するクッションには、クッションが下から滑り落ちないように、シートスリングのループにかみ合うフックタイプの留め具が必要です。車椅子に乗り換えたり座ったりする前に、クッションがしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- c. 標準のスリングシートが車椅子に付属していない場合があります。元のスリングシートからアフターマーケット品に交換されているかどうかは、車椅子販売店に確認してください。その場合は、アフターマーケットメーカーが提供する使用説明書に必ず従ってください。

IV. 車椅子の使い方と構成

F. アークと構成部品

1. 「点検と手入れ」のセクションにある情報を参照して、車椅子を検査およびメンテナンスします。
2. 問題を発見した場合は、すぐに車椅子販売店に連絡してください。



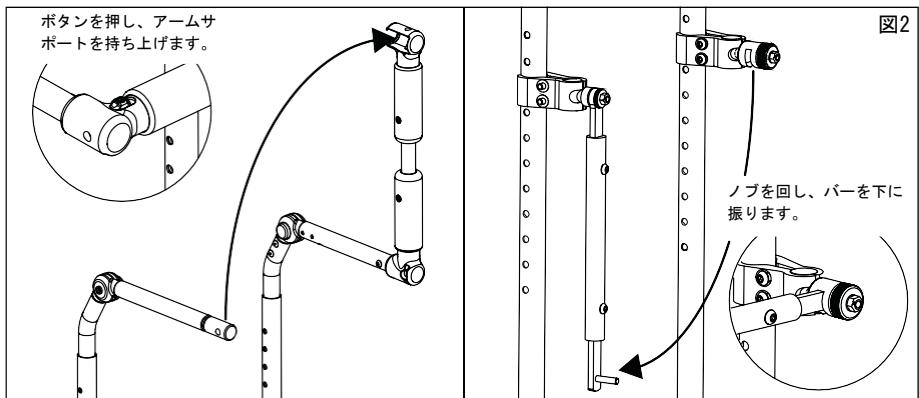
- | | | |
|------------------|------------------|--------------------|
| 1. チルトケーブル | 9. ブレーキ | 17. シートフレーム |
| 2. レバーロックピン | 10. メカロック | 18. ベースフレーム |
| 3. チルトレバー | 11. クイックリリースアクスル | 19. キャスター ホイール |
| 4. プッシュハンドル | 12. ハンドリム | 20. キャスター フォーク |
| 5. パックパイプ | 13. リアホイール | 21. フットプレート |
| 6. シートパン | 14. 転倒防止装置 | 22. スイングアウェイレバー |
| 7. スイングアウェイハングバー | 15. アクスルプレート | 23. 高さ調整式T型アームサポート |
| 8. キャスター ハウジング | 16. ローラーガイド | |

IV. 車椅子の使い方と構成

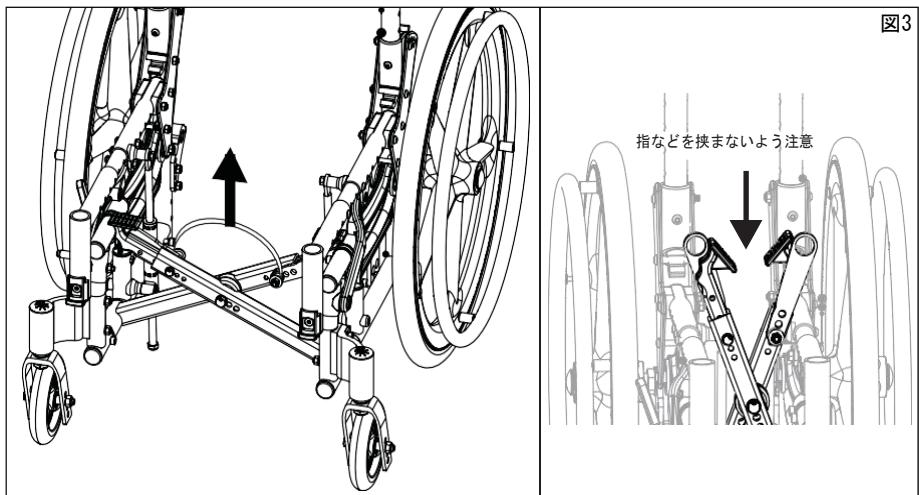
G. 車椅子の折り畳みと展開

車椅子の折り畳み

1. クッション、シートパン、バックサポートをすべて取り外します。
車椅子を完全に折り畳んだら、フットサポートとアームサポートを取り外してさらに小さくすることができます。
2. 存在する場合は、折り畳み式角度調整可能ハンドルや折り畳み式リジッドバーを、図2を参照して外します。



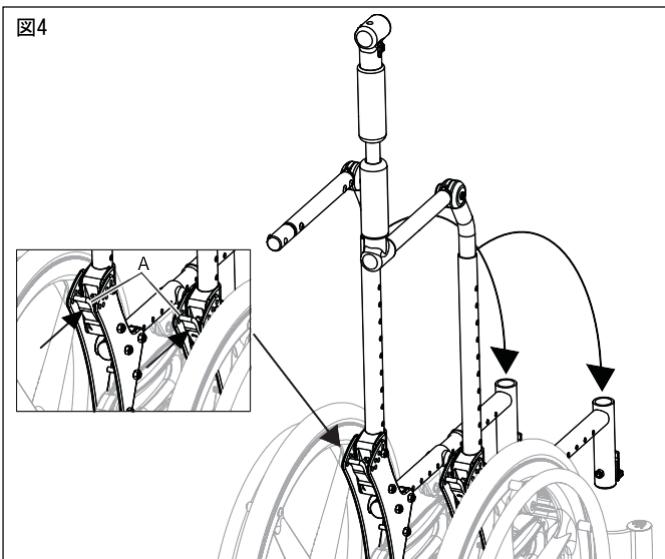
3. 折り畳みストラップで2本の指で折り畳みループを引き上げて、折り畳みのプロセスを開始します。 折り畳みストラップは持ち運び用として設計されていません。 図3を参照してください。



IV. 車椅子の使い方と構成

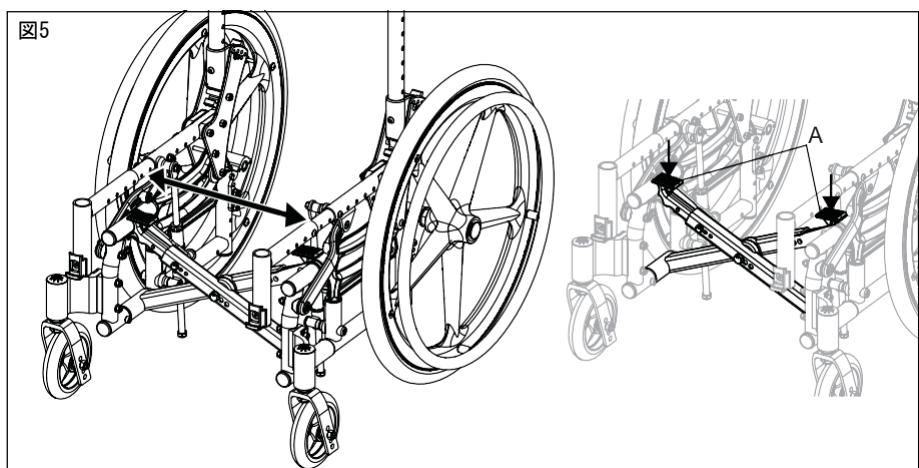
G. 車椅子の折り畳みと展開（前ページの続き）

- 折り畳み式バックパイプを選択した場合、ラッチレバーを押しながらバックパイプを前に押すことで、バックパイプを折り畳むことができます（図4：A）。



車椅子の展開

- バックパイプが折り畳まれている場合は、ラックレバーがカチッと鳴るまでパイプを持ち上げます。
- 椅子の両側を引き離し、延長クロスブレースパッド（図5：A）を押し下げて、クロスブレースが車椅子展開時の所定の位置にあることを確認します。



- 折りたたみ前に取り外したシートパンやクッション等、全ての付属品を装着します。

IV. 車椅子の使い方と構成

H. 高さ調整式T型アームサポート

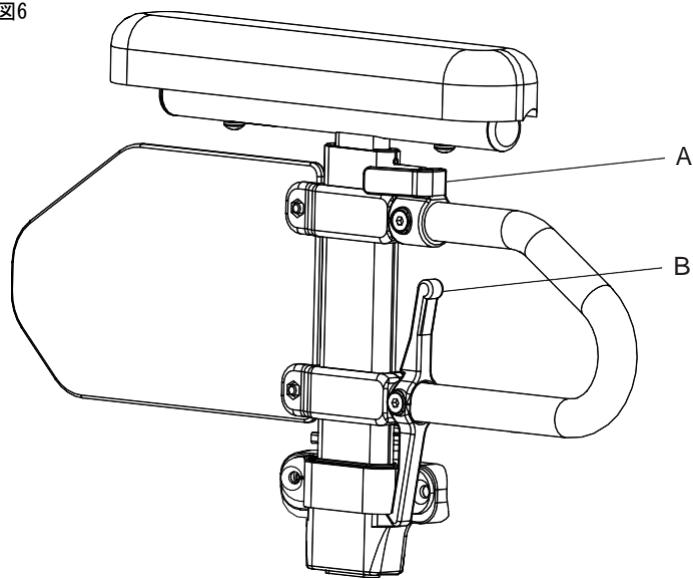
⚠ WARNING ⚠

警告：このアームサポートは回転方向の動きに対するロックのみを提供し、下向きの力のみに耐えるように設計されています。引き上げられると外れるため、車椅子を持ち上げたり、他の方法で取り扱う用途で使用することはできません。上記の指示に従わないと、アームサポートが車椅子から外れ、転倒または制御不能になり、重傷または死亡事故を引き起こす可能性があります。

アームサポートの使い方

1. 取り付け
 - a. 外側のアームポストを車椅子フレームに取り付けられたレシーバーにスライドさせます。
 - b. アームサポートは自動的に所定の位置にロックされます。ロックレバーが下図のようになっていることを確認してください（図6：B）。
2. 高さ調整
 - a. リリースレバーを開きます（図6：A）。
 - b. アームサポートパッドを希望の高さまで上下にスライドさせます。
 - c. レバーをアームポストに対してロック位置に戻します。
 - d. パッドがしっかりと固定されるまで、アームパッドを押し下げます。ロックレバーが下図のようになっていることを確認してください（図6：A）。
3. 取り外し
 - a. リリースレバーを握り（図6：B）、アームサポートを引き上げて取り外します。

図6



IV. 車椅子の使い方と構成

I. 高さ調整式小児用T型アームサポート

⚠ WARNING ⚠

警告：このアームサポートは回転方向の動きに対するロックのみを提供し、下向きの力のみに耐えるように設計されています。引き上げられると外れるため、車椅子を持ち上げたり、他の方法で取り扱う用途で使用することはできません。上記の指示に従わないと、アームサポートが車椅子から外れ、転倒または制御不能になり、重傷または死亡事故を引き起こす可能性があります。

アームサポートの使い方

1. 取り付け

- アームサポートをサイドフレームのレシーバーにスライドさせます。レバーのピンがレシーバーにかみ合っていることを確認します（図7）。

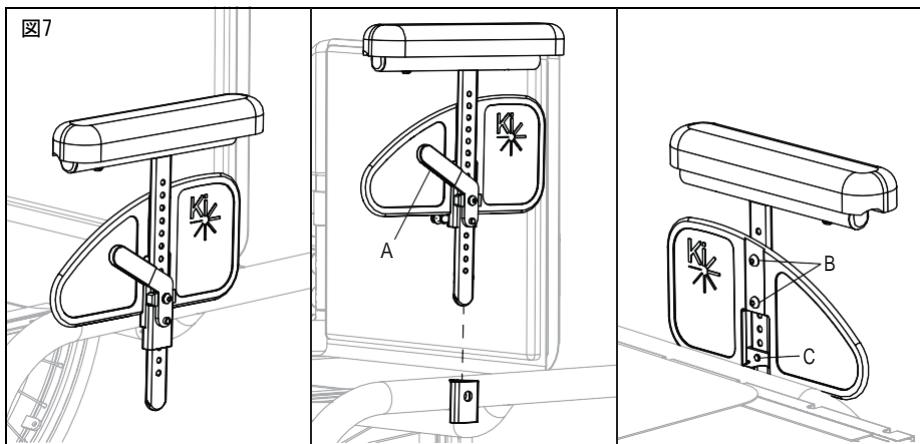
2. 取り外し

- レバー（図7：A）をサイドガードパネルに向かって押し込み、ピンをレシーバーから外します。
- アームサポートをレシーバーからまっすぐ引き抜きます。

3. 高さ調整

- アームサポートを車椅子から取り外します。
- サイドガードから2本の6mmネジを取り外します（図7：B）。
- M4ネジ（図7：C）をサイドガードポストトップからサイドガードポストを通して取り外します。完全に抜くことはせず、ネジはレバーアセンブリに留まった状態にします。反対側も同様に実施します。
- ポストトップとサイドガードポストのレバーアセンブリを希望の高さにリセットします。M4ネジを締め直します（図7：C）。反対側も同様に実施します。
- サイドガードを希望の位置に配置し、2本の6mmネジ（図7：B）でサイドガードを所定の位置に固定します。2本の6mmネジを締めます。反対側も同様に実施します。
- アームサポートをレシーバーに取り付けます（図7）。

図7



IV. 車椅子の使い方と構成

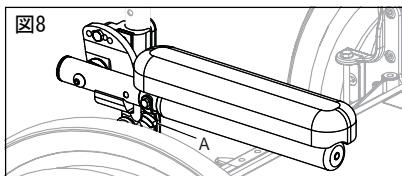
J. 角度・長さ段階調整式フリップアップアームサポート

⚠ WARNING ⚠

警告：このアームサポートは回転方向の動きに対するロックのみを提供し、下向きの力のみに耐えるよう設計されています。それらは引き上げられると完全に取り外され、車椅子を持ち上げたり、他の方法で取り扱う用途で使用することはできません。上記の指示に従わないと、アームサポートが誤って車椅子から外れ、転倒または制御不能になり、重傷または死亡事故を引き起こす可能性があります。

アームサポートの使い方

1. 跳ね上げ
 - a. リリースレバー（図8：A）を上に押して、アームサポートのロックを解除します。
 - b. アームサポートを上向きにスイングします。
2. 跳ね上げたアームサポートを戻す
 - a. カチッとロックされるまでアームサポートを戻します。



K. スイングアウェイハンガー

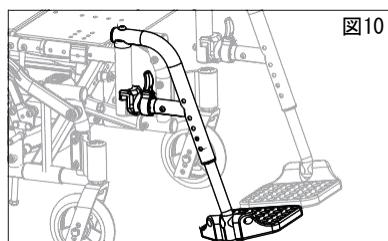
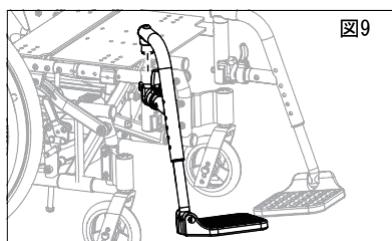
⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子を使用または乗車する前に、ハンガーが所定の位置にロックされていることを確認してください。使用中にハンガーのロックを解除すると、転倒して重傷を負ったり死亡する可能性があります。

⚠ 移乗中のつまずきや落下を避けてください。車椅子が前に倒れて転倒し、重傷を負ったり死亡したりする可能性があるため、足がフットサポート間のスペースに引っ掛からないようにし、フットサポートに体重をかけないようにしてください。

スイングアウェイハンガーの使い方

1. 取り付け
 - a. フットレストをフレームから内側または外側に向けて、スイングアウェイピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます（図9）。
 - b. フットサポートを回転させフレームに合わせ、ラッチブロックの所定の位置にロックします（図10）。



IV. 車椅子の使い方と構成

K. スイングアウェイハンガー（前ページの続き）

2. フットサポートのスイング
 - a. リリースラッチをフレームに向かって押します。
 - b. 必要に応じて、フットサポートを外側または内側に回転（スイング）させます。
3. 取り外し
 - a. フットサポートを取り外すには、リリースラッチをフレームに向かって押します。
 - b. フットサポートをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。フットサポートを持ち上げる前に、フットサポートを内側または外側に振ることもできます。

L. 4-Wayタイプラッチ付スイングアウェイハンガー

⚠️ WARNING ⚠️

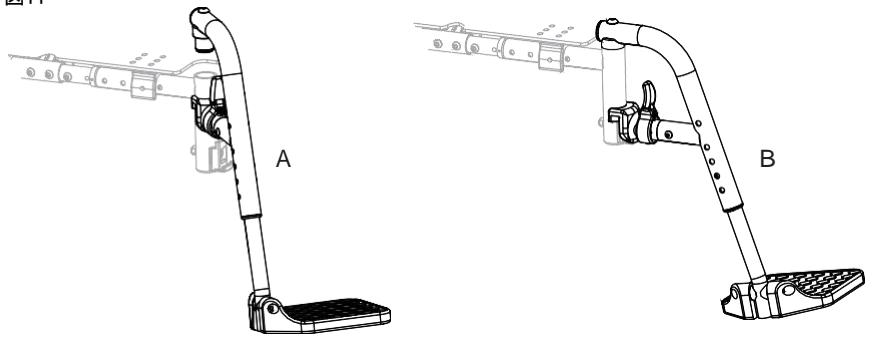
警告：車椅子を使用する前に、ハンガーが所定の位置にロックされていることを確認してください。車椅子の使用中にハンガーのロックを解除すると、転倒し重傷を負ったり死亡する可能性があります。

⚠️ 移乗中のつまずきや落下を避けてください。車椅子が前に倒れて転倒し、重傷を負ったり死亡したりする可能性があるため、足がフットサポート間のスペースに引っ掛からないようにし、フットサポートに体重をかけないようにしてください。

4-Wayタイプラッチ付スイングアウェイハンガーの使い方

1. 取り付け
 - a. スイングアウェイピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込みます（図11：A）。
 - b. フットサポートを回転させてフレームに合わせ、ラッチブロックの所定の位置にロックします（図11：B）。
2. フットサポートのスイング
 - a. リリースラッチを押す、もしくは引きます。
 - b. 必要に応じて、フットサポートを外側または内側に回転（スイング）させます。
3. 取り外し
 - a. フットサポートを取り外すには、リリースラッチをフレームに向かって押します。
 - b. フットサポートをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。フットサポートを持ち上げる前に、フットサポートを内側または外側に振ることもできます。

図11



IV. 車椅子の使い方と構成

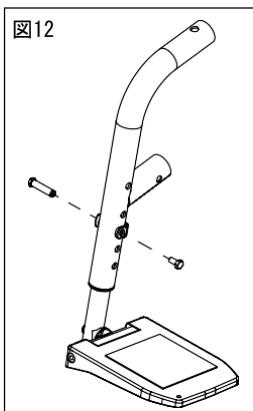
M. 延長チューブ

⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子でも走行、または乗車する前に、ハンガーが所定の位置にロックされていることを確認してください。使用中にハンガーのロックを解除すると、転倒して重傷を負ったり死亡する可能性があります。

延長チューブの調整

1. ハンガーチューブの両側から取り付け用のネジ類を取り外します。
2. 延長チューブを希望の高さまでスライドさせます。
3. 穴の高さ・位置を合わせ、留め具をハンガーと延長チューブを通して目的の穴に再組み立てします。
4. 反対側も1~3の手順を実施します(図12)。



N. エレベーティングフットサポート

⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子を使用する前に、ハンガーが所定の位置にロックされていることを確認してください。車椅子の使用中にハンガーのロックを解除すると、転倒し重傷を負ったり死亡する可能性があります。

⚠ 移乗中のつまずきや落下を避けてください。車椅子が前に倒れて転倒し、重傷を負ったり死亡したりする可能性があるため、足がフットサポート間のスペースに引っ掛からないようにし、フットサポートに体重をかけないようにしてください。

エレベーティングフットサポートの使い方

1. 取り付け
 - a. スイングアウェイピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに差し込み、フットサポートをフレームの内側または外側に向けます。図11に示したスイングアウェイフットサポートと同様です。
 - b. フットサポートをラッチブロックの所定の位置にロックされるまで回転させます。
2. 取り外し
 - a. フットレストを取り外すには、リリースレバーを押す、もしくは引きます。
 - b. フットサポートを外側に回転させ、持ち上げます。

IV. 車椅子の使い方と構成

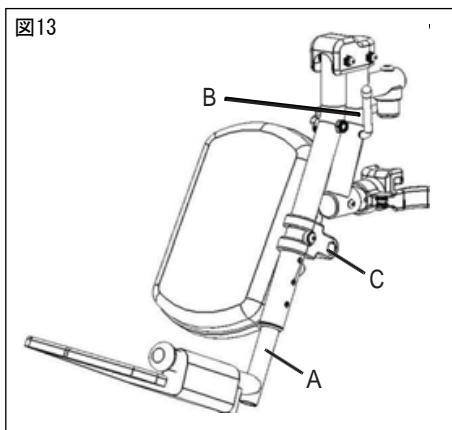
N. エレベーティングフットサポート(前ページの続き)

3. 延長チューブの調整

- パッドブラケット中央のフットサポートチューブにねじ込まれている取付ボルトを外します(図13: C)。場合によっては、このボルトがピボットブラケットの下のチューブに挿入されている場合があります。
- 延長チューブを希望の高さまでスライドさせます。
- 穴を揃え、フットサポートチューブと延長チューブを通してボルトを取り付けます。
- 反対側も同様に実施します。

4. フットサポートの角度調整

- 持ち上げるには、延長チューブの背面を持ち上げます(図13: A)。ロッドはラチエットをこの方向にスライドします。任意の位置で停止します。
- 下げるには、延長チューブの後ろから脚をしっかりと持ちます(図13: B)。レバーを前方に引き(図13: B)、レバーを押したままレッグレストを持ち上げます。レバーを放すと、レッグレストが所定の位置にロックされます。



O. Proエレベーティングフットサポート(Pro ELR)

⚠ WARNING ⚠

警告: 車椅子を使用する前に、ハンガーが所定の位置にロックされていることを確認してください。車椅子の使用中にハンガーのロックを解除すると、転倒し重傷を負ったり死亡する可能性があります。

⚠ 移乗中のつまずきや落下を避けてください。車椅子が前に倒れて転倒し、重傷を負ったり死亡したりする可能性があるため、足がフットサポート間のスペースに引っ掛からないようにし、フットサポートに体重をかけないようにしてください。

Proエレベーティングフットサポートの使い方

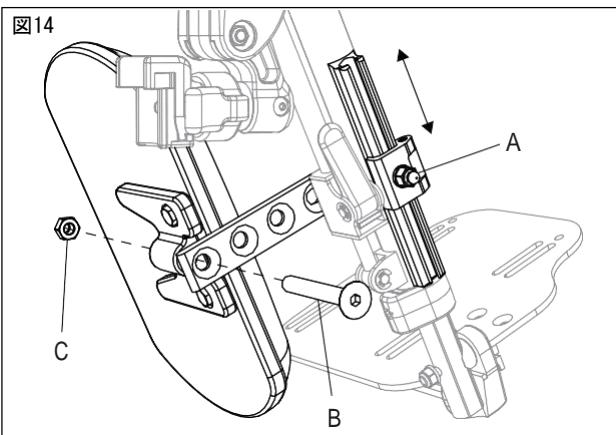
1. 取り付け

- スイングアウェイピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに配置し、フットサポートをフレームの内側または外側に向けます。図11のスイングアウェイフットサポートと同様です。
- フットサポートを回転させ、フレームに合わせ、ラッチブロックの所定の位置にロックします。

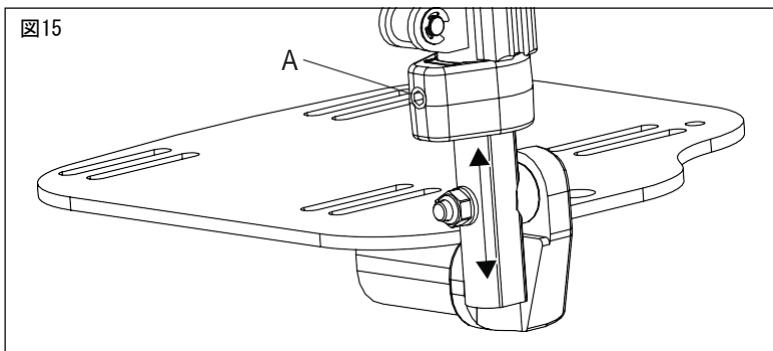
IV. 車椅子の使い方と構成

O. Proエレベーティングフットサポート(前ページの続き)

2. ふくらはぎパッドの高さ調整
 - a. 10mmレンチを使用してナット（図14 : A）を緩めます。
 - b. ふくらはぎパッドアームを希望の位置まで上下にスライドさせます。
 - c. ナットを締め直します。
3. ふくらはぎパッドの奥行調整
 - a. 5mm六角レンチと13mmレンチを使用して、ふくらはぎパッドアームのネジ（図14 : B）とナット（図14 : C）を取り外します。
 - b. 事前に開けられた4つの穴から目的の場所を選択し、ネジとナットを再度取り付けます。



4. フットプレートの高さ調整
 - a. 4mm六角レンチでイモネジ（図15 : A）を緩めます。
 - b. 延長チューブを上下にスライドさせ希望の高さにし、イモネジを締めて固定します。



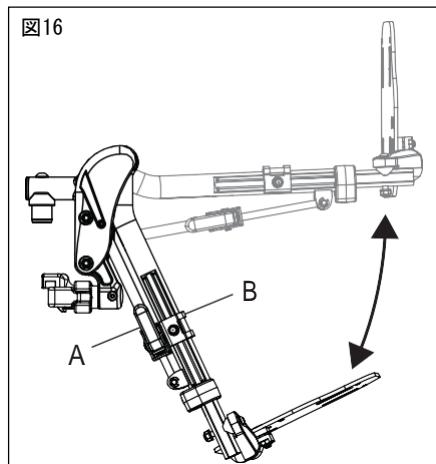
IV. 車椅子の使い方と構成

O. Proエレベーティングフットサポート(前ページの続き)

5. フットサポートの角度調整

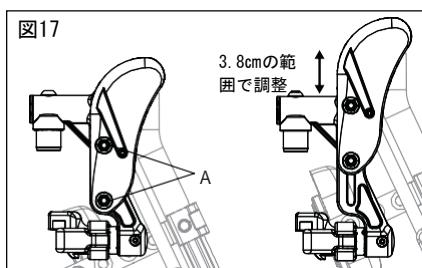
レバーロックを押した際の突然の落下を防ぐため、車椅子からフットサポートを取り外すか、フットサポートを下から支えながら操作します。ふくらはぎパッドは、必要に応じて外側にスイングアウトすることもできます。

- Pro ELRを上げるには、フットサポートチューブ(図16 : A)を希望の仰角まで持ち上げます。
- Pro ELRを下げるには、フットサポートチューブ(図16 : A)を押し下げながら、レバーロック(図16 : B)を押し続けます。
- ナットを締め直します。



6. 膝位置の高さ調整

- 2つの10mmソケットレンチを使用して、カバーのナット(図17 : A)を緩めます。
- 膝の高さを希望の設定に調整します。
- 膝の高さが決まったら、ナットを締め直します。



7. フットサポートの取り外し

- フットサポートを取り外すには、リリースラッチを押すか引きます。
- フットサポートをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。フットサポートを持ち上げる前に、フットサポートを内側または外側に振ることもできます。

IV. 車椅子の使い方と構成

P. 小児用エレベーティングフットサポート

⚠ WARNING ⚠

警告：車椅子の使用前に、ハンガーが所定の位置にロックされていることを確認してください。車椅子の使用中にハンガーのロックを解除すると、転倒して重傷を負ったり死亡する可能性があります。

⚠ 移乗中のつまずきや落下を避けてください。車椅子が前に倒れて転倒し、重傷を負ったり死亡したりする可能性があるため、足がフットサポート間のスペースに引っ掛からないようにし、フットサポートに体重をかけないようにしてください。

小児用エレベーティングフットサポートの使い方

1. 取り付け

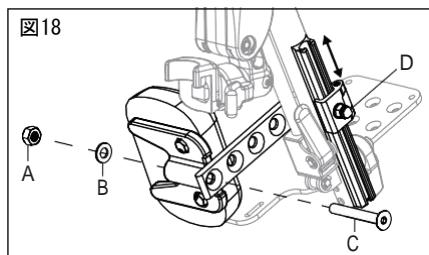
- a. スイングアウェイピボットサドルをフロントフレームチューブのレシーバーに配置し、フットサポートをフレームの内側または外側に向けます。図11のスイングアウェイフットサポートと同様です。
- b. フットサポートを回転させ、フレームに合わせ、ラッチブロックの所定の位置にロックします。

2. ふくらはぎパッドの高さ調整

- a. 10mmレンチを使用してナット（図18 : D）を緩めます。
- b. ふくらはぎパッドアームを希望の位置まで上下にスライドさせます。
- c. ナットを締め直します。

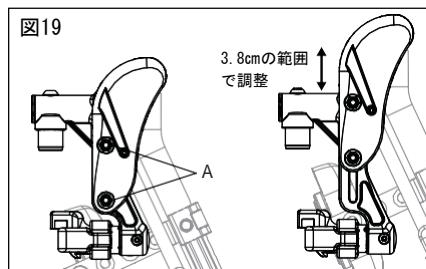
3. ふくらはぎパッドの奥行調整

- a. 5mm六角レンチと13mmレンチを使用して、ふくらはぎパッドアームのネジ（図18 : C）、ワッシャー（図18 : B）、ナット（図18 : A）を取り外します。
- b. 事前に開けられた4つの穴から目的の奥行になる穴を選択し、ネジとナットを再度取り付けます。



4. 膝位置の高さ調整

- a. 2つの10mmソケットレンチを使用して、カバーのナット（図19 : A）を緩めます。
- b. 膝の高さを希望の設定に調整します。
- c. 膝の高さを確保するためにナットを締め直します。



IV. 車椅子の使い方と構成

P. 小児用エレベーティングフットサポート(前ページの続き)

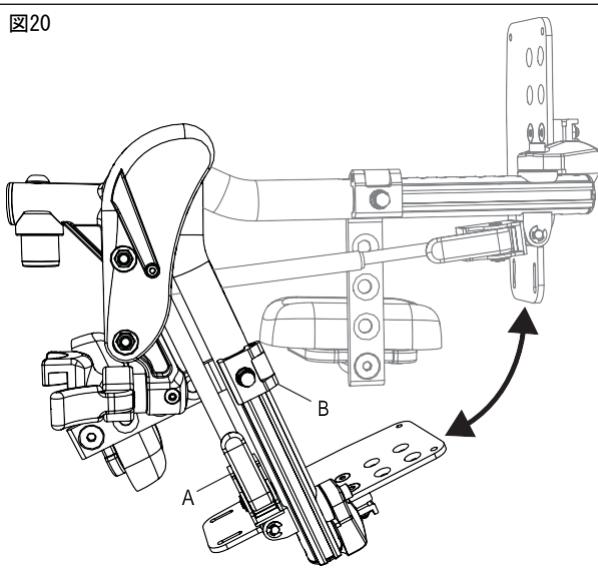
5. フットサポートの角度調整

レバーロックを押した際の突然の落下を防ぐため、車椅子からフットサポートを取り外すか、フットサポートを下から支えながら操作します。

- a. 上げるには、フットサポートチューブ（図20：A）を希望の仰角まで持ち上げます。
- b. 下げるには、フットサポートチューブ（図20：A）を押し下げながら、レバーロック（図20：B）を押し続けます。

6. 小児用エレベーティングフットサポートの取り外し

- a. フットサポートを取り外すには、リリースラッチを押すか引きます。
- b. フットサポートをまっすぐ上に持ち上げて取り外します。持ち上げる前に、フットサポートを内側または外側に振ることもできます。



IV. 車椅子の使い方と構成

Q. 拘縮用フットサポート

⚠ WARNING ⚠

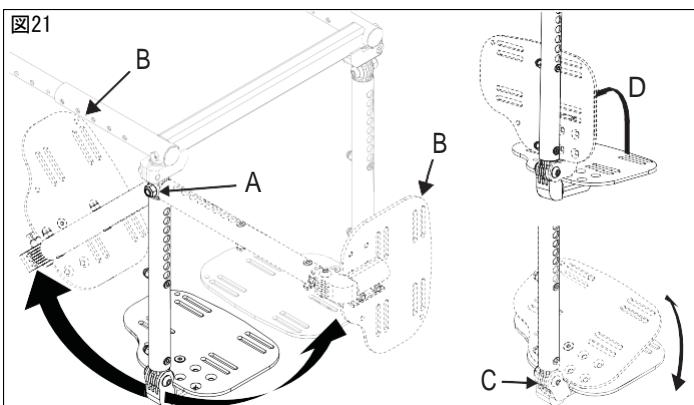
警告：車椅子を使用する前に、ハンガーが所定の位置にロックされていることを確認してください。車椅子の使用中にハンガーのロックを解除すると、転倒し重傷を負ったり死亡する可能性があります。

⚠ 移乗中のつまずきや落下を避けてください。車椅子が前に倒れて転倒し、重傷を負ったり死亡したりする可能性があるため、足がフットサポート間のスペースに引っ掛からないようにし、フットサポートに体重をかけないようにしてください。

拘縮用フットサポートの使い方

図21は、外側マウント構成の拘縮用フットサポートを示しています。センターマウント構成は、フットサポートを反対側に移動することで実現できます。

1. フットサポートは、上部のピボットポイントで調整するだけで、車椅子に向かって角度を付けたり、車椅子から離したりすることができます（図21：A）。
2. 拘縮フットサポートのフットプレートは、前後に移動したり（図21：B）、角度を変更したり（図21：C）、跳ね上げて移動したりすることもできます（図21：D）。



IV. 車椅子の使い方と構成

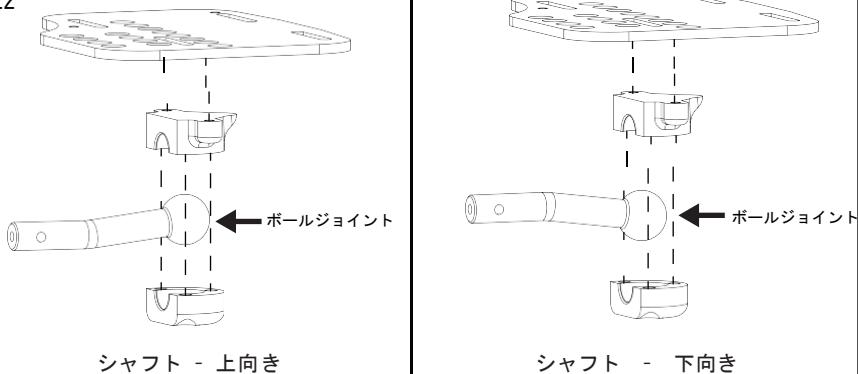
R. マルチアングル調整式アルミフットプレート

1. 角度調整 (図22)

マルチアングル調整式アルミフットプレートはボールジョイントを採用しているため、フットプレートをさまざまな角度に設定できます。

フットプレートの高さ変更

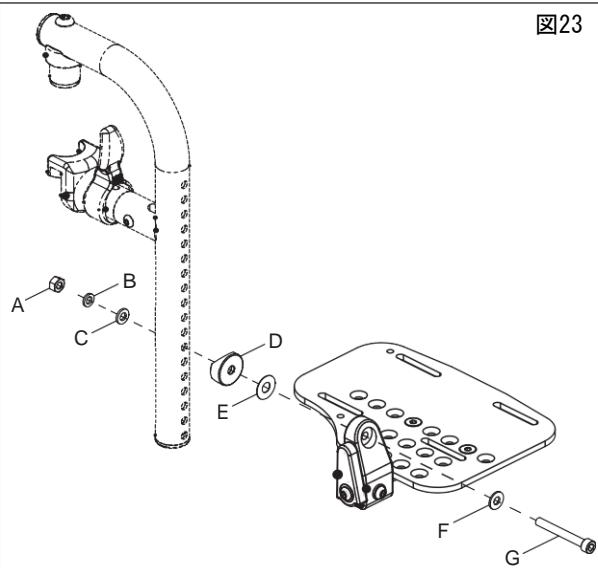
図22



a. 5mm六角レンチおよび10mmレンチを使用し、ネジ(図23:G)、ワッシャー(図23:F)、ワッシャー(図23:E)、サドルスペーサー(図23:D)、ワッシャー(図23:C)、ワッシャー(図23:B)、およびナット(図23:A)を取り外して、フットプレートアセンブリをハンガーから取り外します。

b. フットプレートアセンブリを希望の高さに合わせ、ハードウェアを最も近い穴に再度取り付けます。

図23

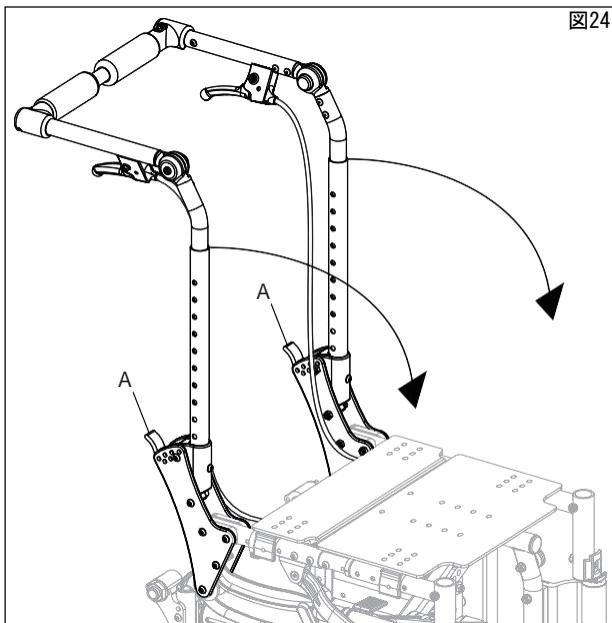


IV. 車椅子の使い方と構成

S. バックサポート

バックサポートの折り畳み方法

1. レバー（図24 : A）を車椅子の前側に向かって押して、ラッチを解除します。ハードタイプのバックサポートが取り付けられている場合、バックサポートを折りたたむには、両方のラッチを同時に解除する必要があります。
2. バックサポートを前に押すと倒れます。倒れ始めたら、ラッチレバーを離してかまいません。

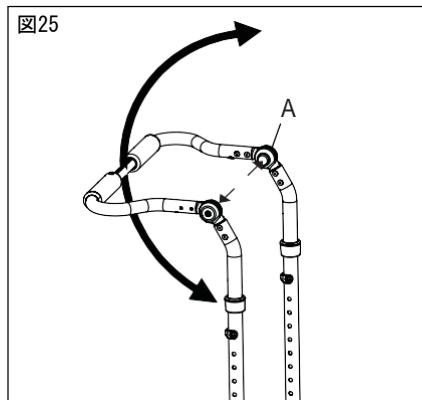


IV. 車椅子の使い方と構成

S. バックサポート(前ページの続き)

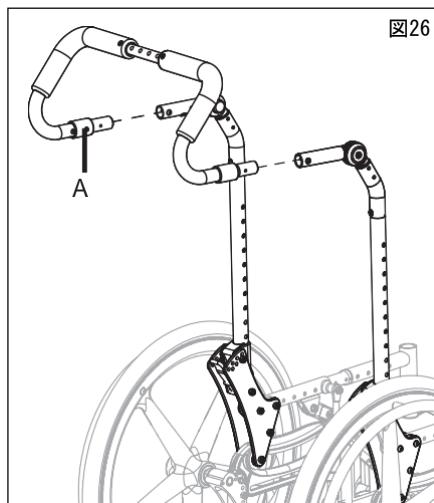
プッシュハンドルの角度調整

- 車椅子に高さ調節式バックサポートが装備されている場合は、ロッキングヒンジのボタンを押します(図25:A)。角度を調整するには、両側のボタンを同時に押す必要があります。
- ボタンを押したまま、プッシュハンドルを目的の位置まで回転させます。
- 希望の角度になったら、ボタンを放します。
- プッシュハンドルを少し上に上げ、ヒンジがロックされていることを確認します。



ストローラーハンドルの取り外し

- バックパイプの両側にあるボタン(図26:A)をベビーカーのチューブの下端に向かって押し下げて、ロックタブを外します。
- ハンドルをレシーバーから引き出して取り外し、ストローラーハンドルをレシーバーに押し込んで取り付けます。最良の結果を得るには、両側を同時に挿入します。



IV. 車椅子の使い方と構成

T. リクライニング式バックサポート

バックサポートのリクライニング

注：図27はハンドチルト構成、図28はフットチルト構成を示しています。

1. リクライニング角度調整の前にシステムのロックを解除するには、各リクライニングレバーのロック穴（図27：B）に差し込まれたロックピン（図27：A）を取り外します。
2. ホイールロックがかかつており、車椅子が平らな面にあることを確認します。
3. ハンドルをしっかりと握った状態で左右のリクライニングレバー（図28：A）を同時にゆっくりと握り、ガスダンパーを解放します。これにより、バックサポートの角度を下のように調整できます。
 - a. バックサポートを倒す-シートフレームに対するバックサポートの角度を開くには、ガススプリングに下向きの力を加えます。
 - b. バックサポートを戻す-力を上向きに加え、バックサポートを後ろから押すことにより、直立位置に戻ります。
4. 希望のバックサポートのリクライニング角度が達成されたら、左右のリクライニングレバーをゆっくりと放します。
5. システムをロックするには、ロッキングピンをレバー根元の穴に挿入します。ポジショニングが完了したら、常に両方のリクライニングレバーをロックすることをお勧めします。

図27

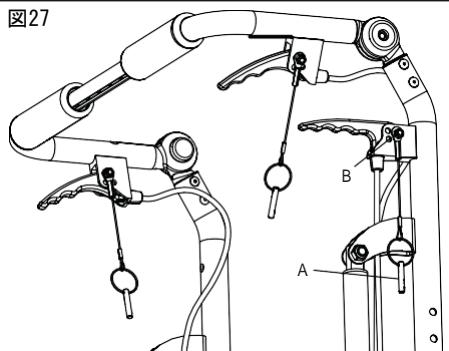
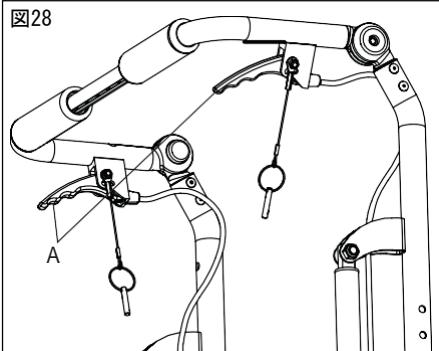


図28



IV. 車椅子の使い方と構成

U. ティルトメカニズム

⚠ WARNING ⚠

警告：レバーがロック解除位置で固定された状態で、車椅子を放置しないでください。その状態で誰かを車椅子に放置すると、転倒して重傷を負ったり死亡する可能性があります。

⚠ CAUTION ⚠

注意：ティルト動作中には、可動部で指などを挟む恐れがあります。傾ける際は、車椅子の側面に沿って動くコンポーネントから手を離してください。挟まるリスクのある個所を回避しないと、怪我をする可能性があります。

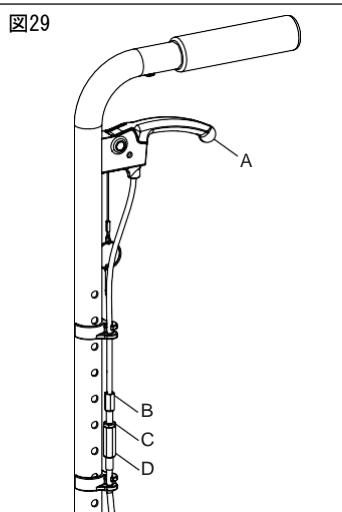
ハンドティルトの使い方

1. ティルトさせる

- ひとつ、または両側のレバーを握ります(図29:A)。
- レバーを握ったまま、シートフレームを希望の角度まで回転させます。
- レバーを離すと、シートフレームが固定されます。

2. ティルトワイヤーの調整

- 10mmおよび3/8 "のレンチを使用し、ケーブルアジャスター本体(図29:D)からジャムナット(図29:C)のロックを解除します。
- ケーブルのたるみがなくなるまでケーブルアジャスター(図29:B)をねじ込みますが、歯車が回転フレームの歯に完全に収まるようにします。
- ケーブルの機能を確認します。ティルト機構はどの角度でもロックされる必要があり、歯車はどの角度でも歯に沿って引きずられるべきではありません。歯車が引きずられる場合、またはレバーに過度の遊びがある場合、歯車が歯から完全に外れている場合は、状況に応じてアジャスターを調整します。
- ケーブルを調整して機能を確認したら、アジャスターやアジャスター本体ではなく、ナットのみを締めて、ジャムナットをケーブルアジャスター本体に固定します。



IV. 車椅子の使い方と構成

U. ティルトメカニズム（前ページの続き）

3. レバーのロック

- a. 図30と31を確認し、車椅子のバックパイプとレバーの形状を確認します。
- b. ハンドルを押して、車椅子にブレーキがかかるか確認します。
- c. ストラップでレバーに取り付けられているピンを、ハンドレバー根元の穴に挿入します（図30 : Aおよび31 : A）。
- d. レバーをそっと握ってバックパイプを後ろに傾けても、レバーがロックされティルトしないことを確認します。

図30

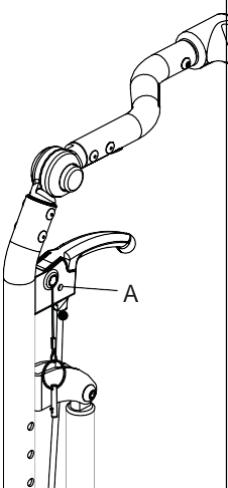
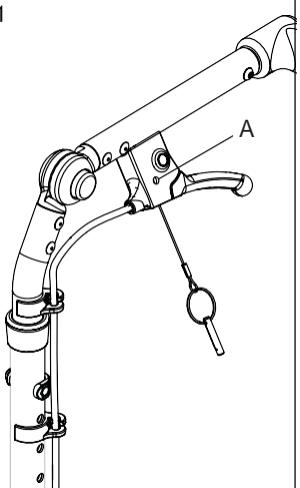


図31

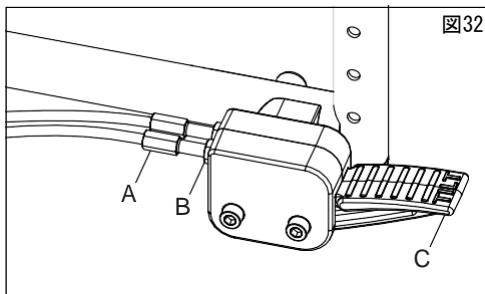


IV. 車椅子の使い方と構成

U. ティルトメカニズム（前ページの続き）

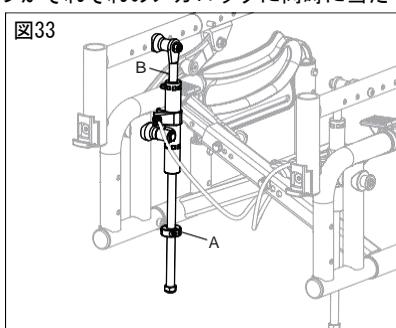
フットティルトの使い方

1. ティルトさせる
 - a. フットペダルを踏みます（図32 : C）。
 - b. ペダルを踏み込んだまま、シートフレームを希望の角度まで傾けます。
 - c. ペダルを放すとロックされます。
2. ケーブルの調整
 - a. アジャスター（図32 : A）を所定の位置に保持しながら、2本の10mmレンチを使用してジャムナット（図32 : B）を緩めます。反対側も同様に実施します。
 - b. ワイヤーに希望の張りが得られるまでアジャスターを回してケーブルを調整します。ペダルを放している間はメカロックのアクチュエータが作動しておらず、ペダルを踏むとメカロックが自由にスライドすることを確認してください。
 - c. 必要な張りが得られ、適切に機能することをテストしたら、レンチでアジャスターを所定の位置に保持し、ジャムナットを締めます。反対側も同様に実施します。



ティルトトップの使用

1. ティルトトップからネジを外し、メカロックのシャフトに取り付けます。ネジを再度取り付けますが締め過ぎないでください（図33 : A）。反対側についても同様に実施します。
2. ティルト角を制限したい角度までティルトさせます。
3. 後方へのティルトを制限するにはティルトトップをメカロック本体底部に当て、締め込みます。前方へのティルトを制限するためには、ティルトトップをメカロック本体上部に配置することもできます（図33 : B）。希望の角度になったら、ティルトトップをメカロック本体の上部に当てて締めます。
4. 左右のティルトトップがそれぞれのメカロックに同時に当たっていることを確認します。



IV. 車椅子の使い方と構成

V. リアホイール

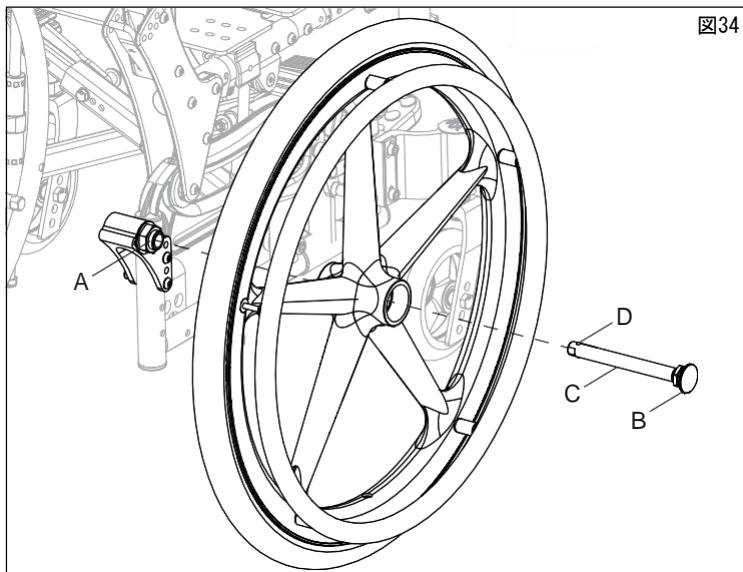
⚠️ WARNING ⚠️

警告：車椅子の操作前に、クイックリリースのプッシュボタンが完全に伸び、内側のロックボールが完全に飛び出していることを確認してください。そうしないと、車輪が脱落し、転倒や転倒の原因となり、重傷を負つたり死亡する恐れがあります。

リアホイールの取り扱い

1. ホイールの取り付け

- アクスル（図34：C）のクイックリリースボタン（図34：B）を押し、ロッキングボールを後退させます。リリースボタンの伸びきった位置と押し下げた位置の違い、アクスルのもう一方の端にあるロッキングボール（図34：D）への影響に注意してください。
- アクスルが分離している場合は、ホイールのペアリングハウジングにアクスルを挿入します。
- クイックリリースボタンをもう一度押して、アクスルをアクスルスリーブにスライドさせます（図34：A）。
- ボタンを放し、アクスルをスリーブにロックします。リリースボタンが完全に伸びておらず、ボタンをリリースした後でもロックボールがロック位置に移動しない場合は、アクスルの長さを調整する必要があります。
- ホイールが合わない場合は、反対側に取り付けてみてください。



2. ホイールの取り外し

- アクスルの外側にあるボタンを押し込みます。
- ボタンを押したまま、ホイールとアクスルをアクスルスリーブから引き抜きます。

IV. 車椅子の使い方と構成

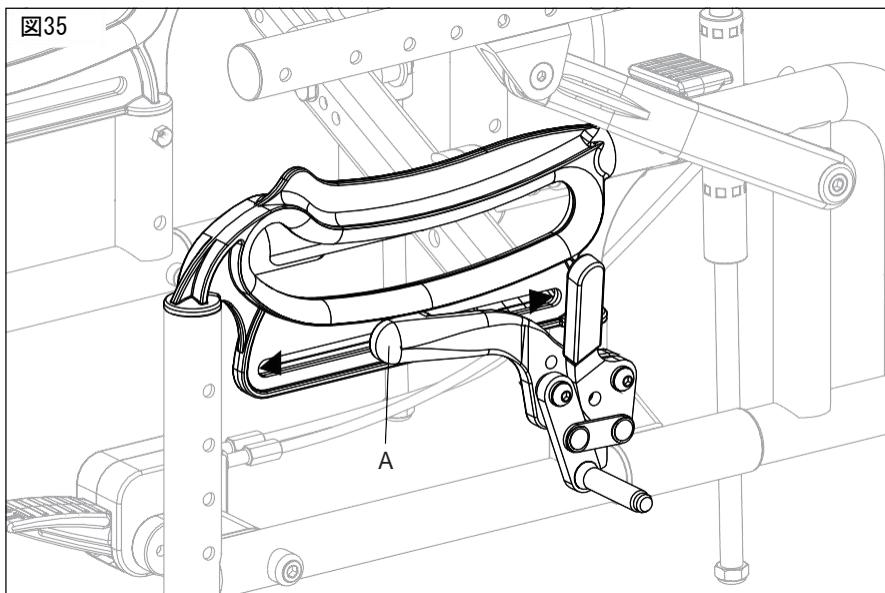
W. ブレーキ

⚠ WARNING ⚠

警告：タイヤの空気圧が不足している、または摩耗していると、ブレーキが正しく機能しなくなる可能性があります。ブレーキが適切に機能しないと、制御が失われたり転倒したりして、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

1. ブレーキの調整

- a. 10mmのレンチまたはソケットを使用し、車椅子のフレームの内側にある六角ボルト（図35 : A）を緩めます（取り外さないでください）。
- b. ブレーキアセンブリを、適切にロックできる位置に前後にスライドさせます。
- c. 六角ボルトを締め直します。



IV. 車椅子の使い方と構成

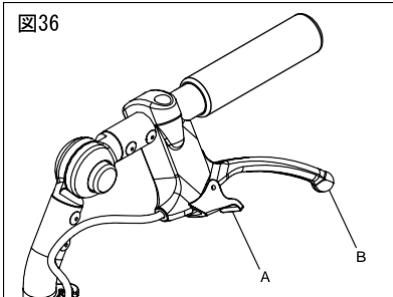
X. ドラムブレーキ

ドラムブレーキの使い方

1. ドラムブレーキの使用

- a. 車椅子の両側にあるブレーキレバー（図36：B）を握り、ブレーキをかけます。左右それぞれ独立して作動し、レバーを握る力の強弱でブレーキの利き具合を調節できます。
- b. レバーを離してブレーキを解除します。
- c. パーキングブレーキ機能を使用するには、各ブレーキレバーを握り、トリガーを握った状態で、人差し指を使用してロックレバー（図36：A）をレバーマウントの歯に下ろします。ロックレバーを押した状態でブレーキハンドルを放すと、パーキングブレーキがかかったままになります。
- d. パーキングブレーキを解除するには、バネ仕掛けのロックレバーが元に戻るまでブレーキレバーぐっと握ります。パーキングブレーキが解除されたらブレーキレバーを放し、ブレーキを解除します。

図36



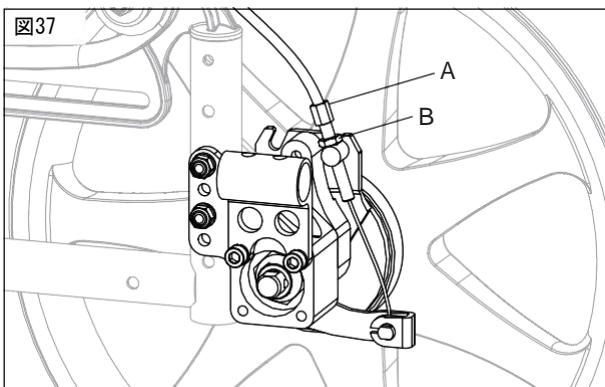
2. ドラムブレーキの調整

- a. 10mmレンチを使用し、アジャスター（図37：A）のジャムナット（図37：B）のロックを解除します。アジャスターのネジを緩めるとブレーキ操作がきつく、アジャスターをねじ込むと緩くなります。

注：推奨ブレーキ構成では、回転時にホイールにわずかな抵抗が生じます。アジャスターを内側に約1/2回転、もしくはその程度調整すると、回転するホイールへの抵抗をなくすことができます。

- b. ジャムナットを締め直し、調整を終えます。反対側も同様に実施します。

図37

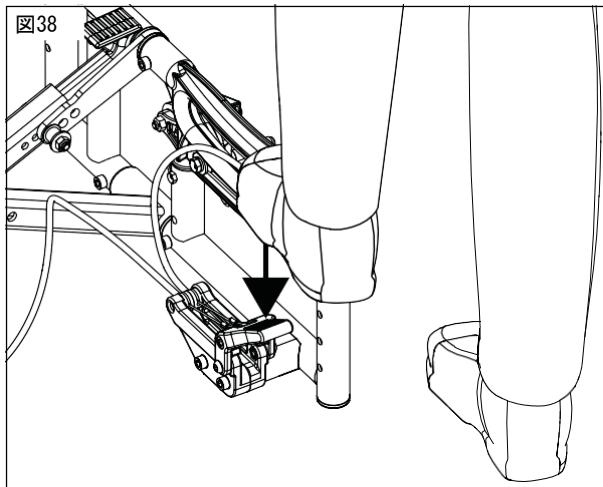


IV. 車椅子の使い方と構成

Y. 介助者用フットブレーキ

介助者用フットブレーキの使い方（図38）

1. ブレーキをかけるには、フットペダルがロックするまでペダルを踏み込みます。
2. ブレーキを解除するには、ペダルのロックが解除されるまでフットペダルを少し踏み込みます。解除されるとペダルは持ち上がった状態になります。



Z. 表面温度

⚠ WARNING ⚠

警告:表面温度が高い状態の車椅子を取り扱うと、危険な状況が発生する可能性があり、回避しないと怪我をする可能性があります。

直射日光やその他の輻射熱源に長時間さらされると、車椅子の表面温度が想定される推奨制限を超えて上昇する可能性があることに注意してください。

IV. 車椅子の使い方と構成

AA. 転倒防止装置

⚠ WARNING ⚠

警告：障害物等との干渉の危険がない場合は、常に転倒防止装置を下向きにしてください。セラピストや車椅子販売店に、転倒防止装置が正しい位置に取り付けられていることを確認してもらいます。彼らは、車椅子を転倒防止装置に傾けて戻し、車椅子の後方への回転が適切に制限されていることをテストすることにより確認することができます。転倒防止装置を取り付けていても、重心位置 (COG) と車輪が地面に接触する点とが垂直に整列する位置まで車椅子が後ろに倒れる場合、車椅子は不安定になり、転倒する可能性があります。転倒すると、車椅子が損傷したり、ユーザーや周囲の人が重傷を負ったり、死亡する可能性があります。



新規ユーザー、経験豊富な車椅子ユーザーに関わらず、新しい車椅子に乗り替えたり、現在の車椅子の構成を調整したりする場合は、常に転倒防止装置を使用する必要があります。ユーザーの身体能力に変化がある場合も、転倒防止装置を使用する必要があります。ユーザーの身体能力や車椅子に変化があると、後ろに転倒するリスクが高まります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、重傷を負ったり、死亡する可能性があります。新しい車椅子または調整された車椅子に適応するまでは、常に転倒防止装置を使用する必要があります。



縁石、障害物、階段を上り下りするときは、転倒防止装置を取り外すか、上に向けて。縁石、障害物、階段を上り下りするときに、転倒防止装置が下向きのままにすると、曲がったり壊れたりする可能性があります。転倒防止装置が曲がったり折れたりすると、車椅子が後方に転倒するのを防ぐことはできなくなります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、ユーザーや周囲の人が重傷を負ったり、死亡する可能性があります。



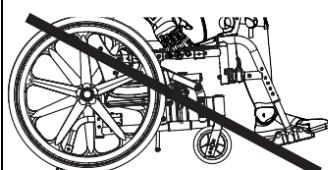
柔らかい路面（砂、緩い土、草、砂利を含むがこれらに限定されない）で車椅子を使用し、地面の傾きやうねり等があると、転倒防止装置の効果が失われ、車椅子が後方に転倒する可能性があります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、ユーザーや周囲の人が重傷を負ったり、死亡する可能性があります。



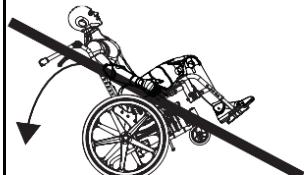
Ki Mobilityは、車椅子に2つの転倒防止装置を使用することをお勧めします。転倒防止装置が1つだけだと、後方に転倒するリスクが高まります。後ろに倒れると、車椅子が損傷したり、ユーザーや周囲の人が重傷を負ったり、死亡する可能性があります。

Ki Mobilityは、車椅子に転倒防止装置を使用することをお勧めしています。転倒防止装置は、車椅子が後ろに転倒するのを防ぐのに役立ちます。適切に調整すると、後方安定性が大幅に向かいます。ただし、転倒防止装置の使用は、車椅子が転倒しないことを保証するものではありません。転倒防止装置を取り外した後、または上位置に回した後は、必ず再取り付けするか、下向きに回してください。

転倒防止装置は、ユーザーの体重を長時間支えることを想定したものではありません。



転倒防止の設定が短すぎると、車椅子が後方に転倒するのを防ぐことができません。



転倒防止装置は、ユーザーの全重量に耐えられません。縁石、障害物、階段の昇り降りで転倒防止装置を解除しないと、転倒防止装置に曲がりや破損が発生する場合があります。



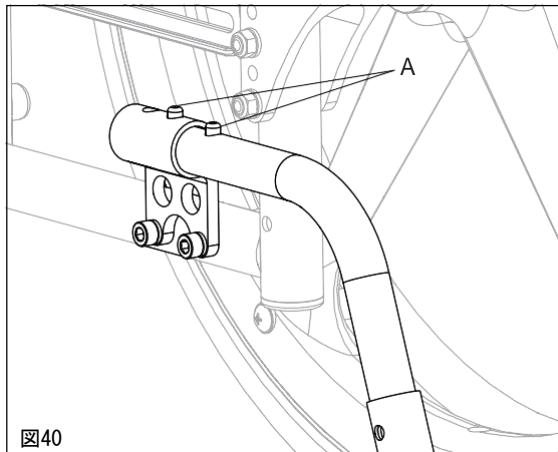
図39

IV. 車椅子の使い方と構成

AA. 転倒防止装置(前ページの続き)

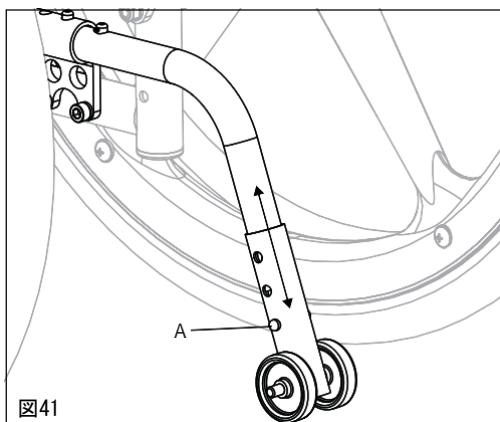
スタンダード転倒防止装置の取付け(図40)

1. 後部の転倒防止リリースピン(図40:A)を、両方のリリースピンが引っ込むまで押します。
2. キャンバーチューブに取り付けられたレシーバーに転倒防止チューブを挿入します。
3. 転倒防止装置を下に向け、リリースピンがレシーバーの取り付け穴にはまるまで位置を調整します。
4. 反対側も同様に実施します。



高さ調整(図41)

1. 転倒防止装置のホイールリリースピンを押し、リリースピン(図41:A)を内側に引き込みます。
2. 転倒防止装置を、ピンと他の穴の位置が合うよう上下させます。
3. 穴からピンを出します。
4. 反対側も同様に実施します。左右の高さを合わせます。

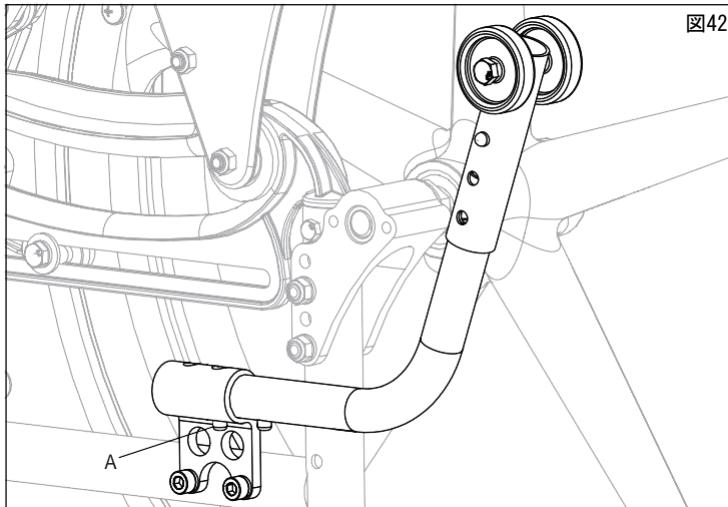


IV. 車椅子の使い方と構成

AA. 転倒防止装置(前ページの続き)

転倒防止装置を上に向ける(図42)

1. 転倒防止装置後部のリリースピンを押します(図42:A)。
2. ピンを押したまま、転倒防止装置を上に向けます。
3. ピンを解放します。
4. 反対側も同様に実施します。
5. 解除が必要な動作が完了したら、転倒防止装置を元に戻します。

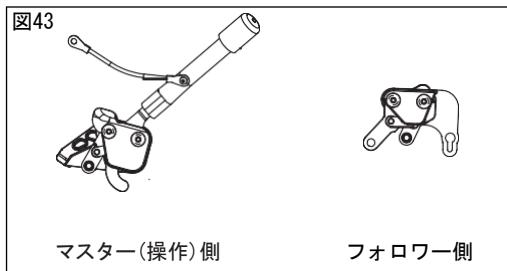


IV. 車椅子の使い方と構成

BB. 片手ブレーキ

マスター(操作)側とフォロワー側

マスター(操作)側には、ブレーキを作動させるためのハンドルがついています。図43のイラストでは、マスター(操作)側は車椅子右側です。

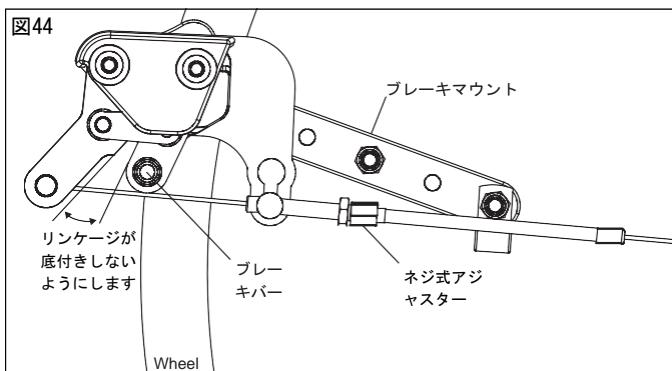


ブレーキの調整 (図44を参照)

1. ブレーキマウントが自由に動くのに十分緩んでいることを確認します。
2. ブレーキアセンブリをロック位置にセットし、刻み付きバーがタイヤにほとんど接触しない位置にします。
3. ボルトを緩めた状態で、ホイールが回転せずロックされた状態で車椅子をホイールで持ち上げられる位置まで、アセンブリを6mm刻みでタイヤに向かってスライドさせます。
4. マスター側ブレーキアセンブリのブレーキがロック位置にあるときにリンクがオーバーセンター位置に入っていること、フォロワー側ブレーキアセンブリのブレーキがロック解除位置に戻ることを確認します。

注: エアータイヤ仕様のスポーツホイールなどの一部の構成では、フォローアーセンブリとの初期干渉が見られる場合があります。固定するには、ケーブルのネジ式アジャスターを後方に動かします。これにより、同じロック力を維持しながらブレーキを前方にシフトできます。

5. マスター側ブレーキアセンブリとフォロワー側ブレーキアセンブリをブレーキマウントに接続するボルトを、4mm六角レンチを使用し $5.7\text{N}\cdot\text{m}$ で締めます。
6. ブレーキアセンブリを車椅子フレームに接続しているボルトを完全に締めます。
7. フォロワー側のネジ調整は、フォロワー側のリンクケージが底付きしないように調整する必要があります。

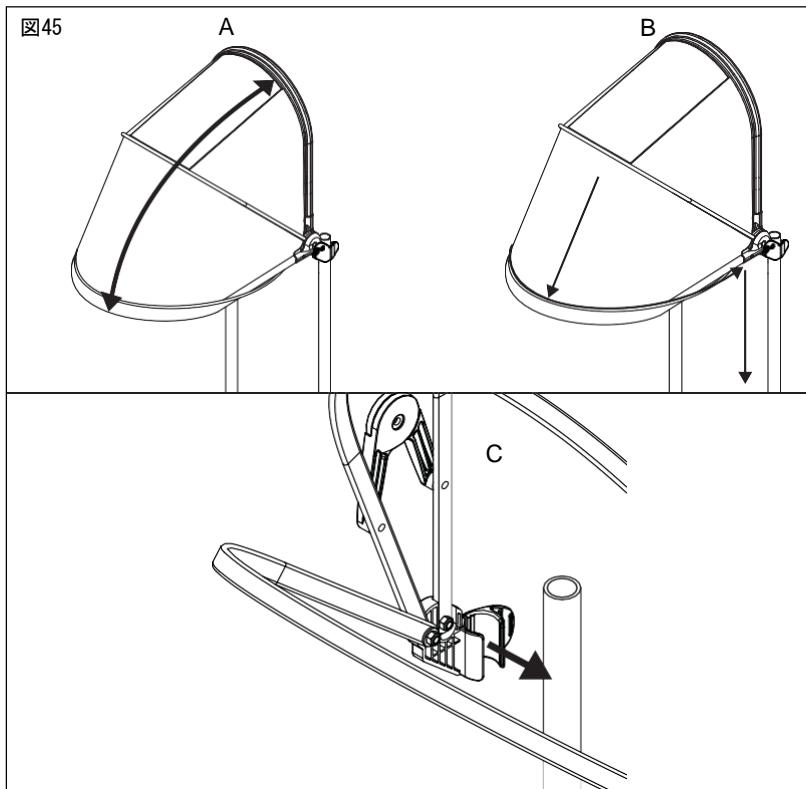


IV. 車椅子の使い方と構成

CC. キャノピー

キャノピーの使い方

1. キャノピーの折りたたみ (図45 : A)
 - 閉じるには、キャノピーの前端を持ち上げ、前端を後端まで持っていく、キャノピーを折りたたみます。
 - 開くには、キャノピーの前端を持ち、キャノピーが完全に開くまで引き下ろします。
 - 車椅子を持つ際には、キャノピーの破損を避けるため取り外しておくことを強く推奨します。
 - 車椅子の車載時には、キャノピーは取り外しておく必要があります。
2. 取り付けと取り外し (図45:C)
 - キャノピー両側のレシーバーをバックパイプから外してキャノピーを取り外します。
 - キャノピーを取り付けるには、両側のレシーバーをバックパイプにはめ込みます。必要に応じて高さを調節します。
3. レインキャッチ (図45:B)
 - キャノピーの端は折りたたまれており、雨を受け止めユーザーにかかりにくい構造です。

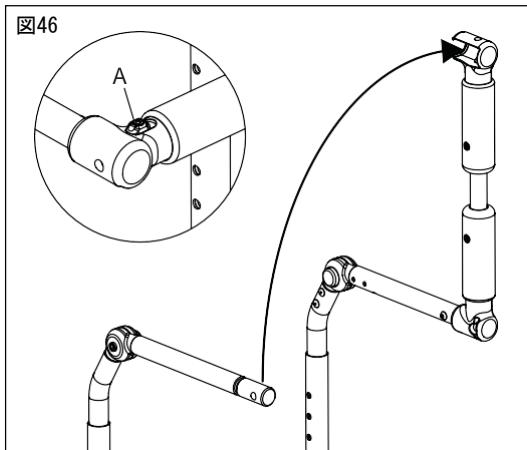


IV. 車椅子の使い方と構成

DD. 折り畳み式調整ハンドル

折り畳み式調整ハンドルの使い方

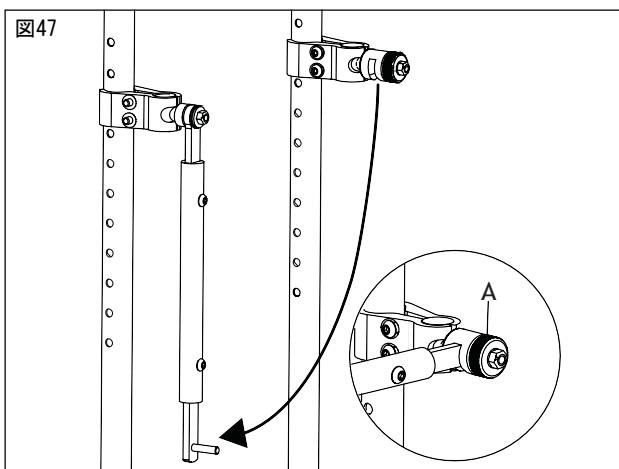
1. リリースボタン（図46 : A）を押し、ハンドルを斜めに持ち上げます。
2. ハンドルを戻すには、リリースボタンがカチッと所定の位置にロックされるまでハンドルを押し下げます。



EE. 折り畳み式リジッドバー

折り畳み式リジッドバーの使い方

1. リリースノブを回転させ（図47 : A）、リジッドバーを下に振ります。
2. リリースノブの後ろのスペースに収まるまでバーを上に振って、リジッドバーを再度かみ合わせます。
3. リリースノブを締め、所定の位置で固定します。



V. 点検と手入れ

A. メンテナンステーブル

定期的かつ周期的なメンテナンスにより、車椅子の性能を向上させながら、寿命を延ばすことができます。車椅子の修理、部品の交換、および実行に不安があるメンテナンスチェックは、認定サプライヤーが行う必要があります。コンポーネントを交換するときは、Ki Mobility認定の部品のみを使用してください。

⚠ CAUTION ⚠

注意：石油系溶剤、脱脂剤、脱水剤（自動車用クリーナー、アルコール、WD-40を含むがこれらに限定されない）は使用しないでください。コンポーネント、ペアリング、または塗装等が損傷する可能性があります。

チェック項目	週ごと	月ごと	年ごと
タイヤの空気圧を確認し、必要に応じて空気を入れます。適切な空気圧はタイヤに記載されています。	✓		
ブレーキのかかり具合を確認します。タイヤの空気圧の変化やタイヤの摩耗次第で、ブレーキを調整する必要があります。調整手順は、このマニュアルの「ブレーキ」セクションに記載されています。	✓		
アクスルスリーブとアクスルプレートを点検し、アクスルスリーブナットがしっかりと締まっていることを確認します。	✓		
クイックリリースアクスルが適切に接続、解放されていることを確認します。	✓		
キャスターホイール、転倒防止ホイール、リアホイールが自由に回転することを確認してください。問題がある場合は、クリーニングまたは部品交換が必要になる場合があります。	✓		
キャスターハウジングとペアリングの周囲を清掃します。これは、髪の毛のたまりやすい場所です。	✓		
車椅子を清掃します。腐食性のこぼれ（食べこぼし等）やバイオハザードにさらされた場合は、すぐに汚染物質を除去してください。手順については、このマニュアルの「クリーニング」セクションを参照してください。	✓		
リアタイヤ、転倒防止ホイール、キャスターホイールに摩耗箇所や損傷がないか確認してください。必要に応じてすぐに交換してください。	✓		
ハンドリムをチェックして、安全で損傷していないことを確認します。	✓		
ハンドグリップが回転したり、外れたりしないことを確認してください。必要に応じて交換してください。	✓		
アームサポートレシーバーに留め具の緩みや欠落がないか確認し、しっかりと固定され、適切に調整され、取り付け位置が維持されていることを確認します。	✓		
ロータリーフレームの滑走面を湿らせた布で拭きます。	✓		
ティルトケーブルの機能をテストし、ケーブルの配線が正しく（ティルトメカニズムのセクションを参照）、激しい曲がり、ねじれがないか目視検査します。	✓		
すべてのケーブルとハンドルが解放されていることを確認し、解放されていない場合は適切に戻します。	✓		
転倒防止装置が機能していることを確認します。	✓		
ローラーベアリングに摩耗や損傷の兆候がないか目視検査します。		✓	
フレームや転倒防止装置に変形、欠陥、ひび、くぼみ、曲がりがないか調べます。これらは車椅子の疲労の兆候である可能性があり、故障につながる可能性があります。車椅子の使用を直ちに中止し、車椅子販売店に連絡してください。		✓	
車椅子のファブリック類に摩耗、ほつれ、穴の兆候がないか確認してください。必要に応じて、すぐに交換してください。		✓	
アームパッド、クッション、バックサポートに損傷、裂け目などがないか確認してください。		✓	
すべてのネジ類が締まっていることを確認してください。特に明記されていない限り、ネジ類は4.51N/mで締めます。		✓	
スポーツの緩み、破損、曲がりがないかホイールを確認してください。必要に応じてすぐに交換してください。		✓	
車椅子が簡単かつまっすぐに転がることを確認します。		✓	
車椅子販売店に車椅子の点検と調整を依頼してください。			✓

V. 点検と手入れ

B. クリーニング

⚠ CAUTION ⚠

注意：難燃剤を含む布張りのアイテム類を洗浄すると、ラベルに示されているように、時間の経過とともに難燃剤の効果が低下する可能性があります。これにより、直火またはその他の発火源にさらされたときに発火する可能性が高まり、怪我のリスクが高まる可能性があります。

アクスル、ホイール、タイヤ、可動部品

1. 毎週、湿らせた布でアクスルとホイールまわりを清掃します。
2. 髪の毛や糸くずが、キャスターハウジングとリアアクスルの中および周囲にたまります。固いブラシまたはピックで取り除きます。ペアリングシールを傷つけないように注意してください。

塗装面

1. 布と中性洗剤を使用して手洗いします。
2. 清潔な布を使用して乾かすか、車椅子を自然乾燥させます。
3. 非研磨ワックスを使用して、塗装面を保護することができます。

布製部品

1. 布と中性洗剤を使用して手洗いします。
2. 自然乾燥させます。絶対に機械で乾かさないでください。

プラスチック部品

1. 布と中性洗剤を使用して手洗いします。
2. プラスチック部品を損傷する可能性があるため、溶剤や強力なクリーナーは使用しないでください。

消毒

1. 70%以上のアルコールまたは清拭剤で表面を消毒します。洗浄液に浸したりしないでください。
2. 消毒剤をすぐに拭き取らず、15分以上放置したのち清潔な布で拭き取ります。

C. 保管

1. 車椅子を使用しないときは、清潔で乾燥した場所で保管してください。そうしないと、車椅子が錆びたり腐食したりする可能性があります。
2. 車椅子を使用せず2か月以上保管されている場合は、使用前に車椅子販売店による点検と整備を受ける必要があります。

V. 点検と手入れ

D. 廃棄

地域によっては特定の廃棄物処理またはリサイクル規制が施行されている可能性があり、処分の手配を行う際にはこれらを考慮に入れる必要があります。これには、廃棄前の車椅子の清掃または汚染除去が含まれる場合があります。

材料のリサイクルが必要な場合は、一般的に車椅子のコンポーネントに使用されている以下のリストを参照してください。

- **アルミニウムフレーム、キャスター、マウント、ベアリングハウジング、キャンバーチューブ、センブリ、バックパイプマウントプレート、バックパイプ、バックサポートトリリースバー、プッシュハンドル、フットサポートチューブ、フットプレート、シートレール、ハンドリム、ホイールリム**
- **スチールネジ類、ナット類、クイックリリースアクスル、キャスター、システム、バックサポートトリリースラッチ、ホイールスポート、ベアリング、アクスルスリーブ**
- **プラスチックアームホイール、キャスタータイヤ、プッシュハンドルグリップ、アームサポートパッド、チューブ、プラグ**
- **布製部品、ポリエチレン織物、ポリウレタンフォーム**

EU指令2012/19 / EU、WEEE（廃電気電子機器）など、材料のリサイクルが必要な場合、REACとMascotはどちらもWEEEに準拠しており、リサイクルと廃棄に関するガイドラインを提供しています。リユース・リサイクル率を高めるには、適切な解体が必要です。鋭利なエッジとの接触を避けるために、適切な工具を使用し、取り扱い時の保護対策が必要です。

リサイクル記号が付いたプラスチックや熱可塑性部品はリサイクルできます。留め具を含むアルミニウム、銅、鋼の部品はリサイクルできます。ケーブル、バッテリー、PCBは、地域の要件に応じて個別に廃棄する必要があります。

車椅子を経済的な理由で処分できない場合、または適切に処分できない場合は、車椅子販売店と相談の上、適切に処分してください。

VI. トラブルシューティング

A. 症状と解決策

最良のパフォーマンスを得るには、車椅子を時々調整する必要があります。以下は、車椅子の使用中に遭遇する可能性のある潜在的な症状のリストと、推奨される解決策です。トラブルシューティング時に最良の結果を得るには、2番目の解決策に進む前に、一度に1つの解決策を試してください。症状が緩和されない場合、または解決策を実行することに自信がない場合は、車椅子を車椅子販売店に持ち込んでの修理を推奨します。

解決策

A—可能な場合は自身で調整するか、車椅子販売店に依頼してください。

B—車椅子販売店に依頼してください。

		症状						
		走行時の片流れ	車椅子の緩み	走行・旋回不良	キャスターの浮き	キャスターの暴れ	きしみ・力チップという音・ガタつき	ティルトの動作不良
解決策	B	車椅子の左側または右側のキャスター・システムと下部キャスター・ハウジング・ペアリングの間にスペーサー・ワッシャーを追加する。	×			×		
	A	すべてのタイヤ空気圧が正しく、等しいことを確認する。	×		×	×		
	A	すべてのネジ類が適切に締められていることを確認し、必要に応じて締める。	×	×	×	×	×	×
	B	ケーブル/フットチルト・メカニズムが調整されていることを確認する。		×			×	×
	A	キャスターが地面に接触しており、浮きがないことを確認する。	×		×		×	
	B	CG設定を最適化する。			×		×	
	A	後輪とフロントキャスターの干渉を確認する。	×		×		×	
	A	疑わしい部分のパーツ同士の接合部分をテフロンベースの潤滑剤で潤滑する。					×	
	A	キャスター・ペアリング・マウントのゴムを清掃する。	×		×		×	

VII. 保証

Ki Mobilityは、この車椅子のフレーム、クイックリリースアクスル(車軸)が、最初の購入者の生涯にわたって材料および製造上の欠陥がないことを保証します。この車椅子のその他すべてのKi Mobility製の部品およびコンポーネントは、Ki Mobilityより出荷された日から1年間、この保証に基づいて材料および製造上の欠陥が発見された場合、ユーキ・トレーディングの選択によりその部品を修理するか交換するかを決定し、無償にてこれを実施します。

保証対象外

1. 下記については保証されません。
 - a. 消耗品類：シート類、タイヤ、肘掛けパッド、チューブ、アームサポートやプッシュハンドルのグリップなど。
 - b. 放置(メンテナンスの不実施)、事故、誤用、または不適切な設置または修理に起因する損傷。
 - c. 耐荷重制限を超えた使用での損傷。
2. 車椅子のシリアルナンバータグが削除または変更された場合、この保証は無効になります。
3. 車椅子が元の状態から修正や加工がなされ、その変更が失敗に終わったと判断された場合、この保証は無効になります。
4. この保証は譲渡できません。ユーキ・トレーディングの販売店を通じて最初に購入されたご利用者にのみ適用します。

Ki Mobilityの対応

唯一の対応可能な責任範囲は、対象部品の修理または交換です。

製品ご利用者様に対応いただきたいこと

- a. 保証期間内に対象製品の状況や不具合を申し出てください。
- b. 製品に関する不具合の申告や修理依頼は、製品を購入された販売店を通じておこなってください。ここで示した保証以外で、市場におけるあらゆる慣例や暗黙のルールなどによる保証は除外されます。

MEMO



CE

2312